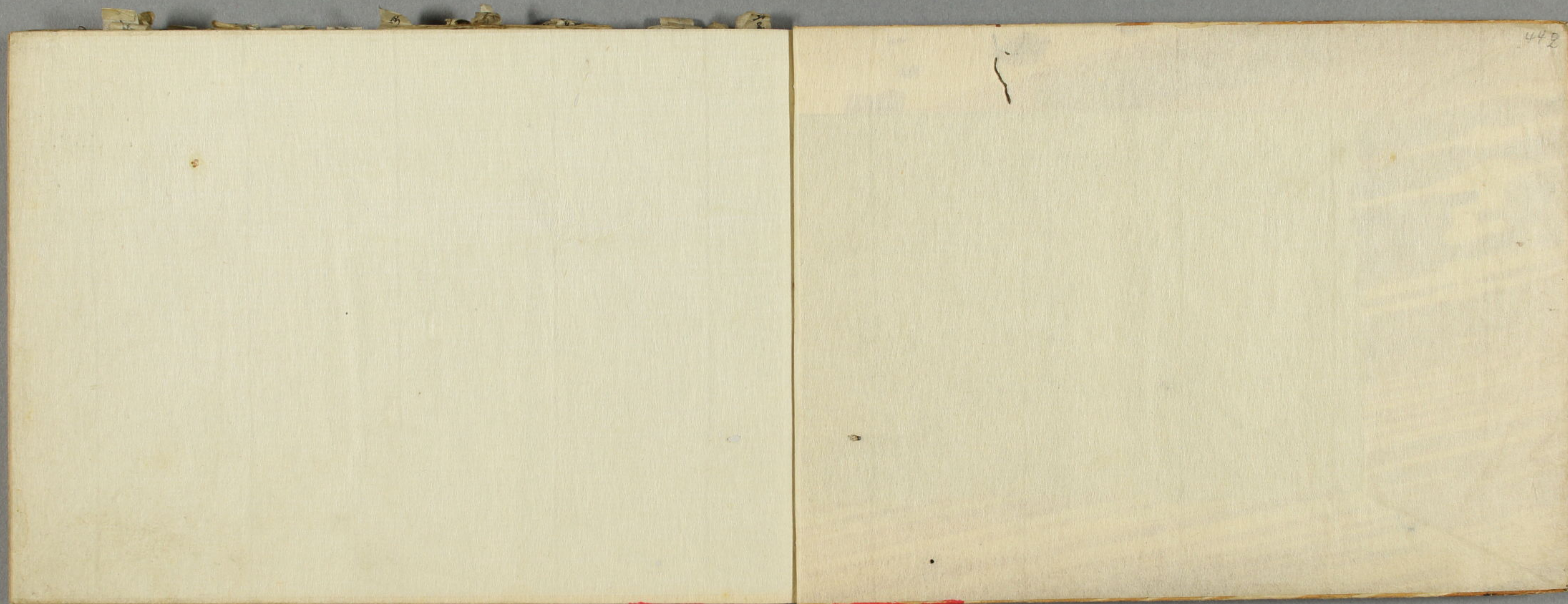


草露傳

元

73
3645
442





門 73  
號 3645  
卷 442

圖書印

草露傳目錄

元 才一 硯持出服

序 才六 堂上記事

才二 辨紙品

才七 大内文法

才三 四手書

才八 女房書

才四 大白雜法

才九 公卿文法

才五 朝庭雜歌

才十 和歌旦文

利

貞

十一 女家雜法

十六 制言札

十二 日 文法

十七 太刀目録

十三 日 書法

十八 目錄雜歌

十四 願書吉案  
起請文

十九 奥島目録

十五 軍中狀

二十 僧家書札



抑當流者

本朝諸禮家而動容

周旋吉凶軍賓嘉無

嘗不學焉按書簡贈

谷公武官爵相當之

式者自弘安八年

後宇多院始而作焉

今家流之書禮者且

學菊亭右府公之

草案且集諸家之秘

藏而大成者也惜哉





幸く苦みふく只何とぞく  
硯白墨を在傍筆を水点して  
之後筆の七候と云ふ合文との  
多少を合まて一筆を盡  
硯の墨を吐へん

一人前と文鏡秘府の云々人の  
前と古法の扇の上と並流た  
る所は有た内宮ふくく  
此として流るす一の古法と  
なり

一文字調候の事一文字の  
長短字を並まて一した  
と一文字の長短分たわれ  
下に分り調候の二つと云  
おと回中一所傳ふに別れ  
正と流るる見方と云ふ一

文字のなけり多し下  
正と流るる見方と云ふ一  
方家の能と云ふ

一 字名調候の事一山名  
候と云ふとわれはも  
既因をまよひて名を  
極く極くしき極く  
字名別形に正と法と  
名をふる候、其ハ  
堂上の名をわれ判り  
判り候、其ハ  
判り候、其ハ

一 別取居候の事一古法判候の  
たけき居候と云ふ  
いふ中判候を

下  
二  
合記  
家仁  
唇

かく居るは之を人(中)書(中)ハ  
 別を小(中)引(中)造(中)皆(中)判(中)の上(中)文字  
 回(中)世(中)回(中)算(中)ハ(中)状(中)の(中)下(中)世(中)判(中)の(中)下  
 一(中)又(中)字(中)回(中)世(中)之(中)下(中)世(中)判(中)取(中)去(中)  
 打(中)字(中)序(中)之(中)定(中)法(中)ハ(中)字(中)を(中)い(中)ふ(中)も  
 聖(中)經(中)經(中)終(中)ら(中)り(中)の(中)法(中)有(中)一(中)  
 古(中)法(中)之(中)文(中)内(中)包(中)陸(中)一(中)判(中)割  
 符(中)の(中)取(中)下(中)一(中)又(中)字(中)有(中)判(中)割(中)之  
 合(中)之(中)法(中)之(中)為(中)の(中)池(中)松(中)用(中)と(中)い(中)ふ(中)  
 古(中)事(中)之(中)目(中)を(中)判(中)取(中)ハ(中)廿(中)七(中)代  
 純(中)神(中)天(中)會(中)の(中)法(中)令(中)法(中)令(中)に  
 判(中)取(中)去(中)と(中)い(中)ふ(中)も(中)後(中)に(中)和(中)三  
 未(中)了(中)未(中)判(中)取(中)正(中)定(中)名(中)也(中)也(中)也(中)  
 判(中)取(中)去(中)と(中)い(中)ふ(中)廿(中)七(中)主(中)の(中)法(中)也(中)  
 是(中)法(中)之(中)押(中)て(中)お(中)の(中)池(中)松(中)と(中)い(中)ふ(中)  
 即(中)ち(中)之(中)也(中)なり

此(中)狀(中)小(中)文(中)禮(中)帝(中)又(中)ハ  
 當(中)來(中)ノ(中)檢(中)狀(中)見(中)ス

一 判(中)取(中)去(中)ハ(中)境(中)之(中)と(中)い(中)ふ(中)又(中)包(中)と  
 法(中)令(中)ノ(中)法(中)令(中)之(中)と(中)い(中)ふ(中)之  
 大(中)半(中)の(中)法(中)令(中)判(中)取(中)去(中)書(中)也(中)也(中)  
 一(中)字(中)と(中)い(中)ふ(中)也(中)也(中)也(中)也(中)  
 六(中)七(中)分(中)之(中)法(中)令(中)判(中)取(中)去(中)之  
 一(中)半(中)法(中)令(中)判(中)取(中)去(中)之(中)付(中)人(中)の(中)字(中)ハ  
 判(中)取(中)去(中)之(中)法(中)令(中)判(中)取(中)去(中)之(中)なり  
 一 書(中)判(中)取(中)去(中)の(中)半(中)上(中)書(中)之(中)法(中)令(中)  
 江(中)法(中)令(中)判(中)取(中)去(中)之(中)法(中)令(中)判(中)取(中)去(中)之(中)なり  
 有(中)を(中)判(中)取(中)去(中)の(中)法(中)令(中)判(中)取(中)去(中)之(中)なり  
 略(中)の(中)法(中)令(中)判(中)取(中)去(中)之(中)法(中)令(中)判(中)取(中)去(中)之(中)なり  
 一(中)字(中)と(中)い(中)ふ(中)也(中)也(中)也(中)也(中)  
 自(中)身(中)と(中)い(中)ふ(中)也(中)也(中)也(中)也(中)  
 一(中)字(中)と(中)い(中)ふ(中)也(中)也(中)也(中)也(中)  
 一(中)字(中)と(中)い(中)ふ(中)也(中)也(中)也(中)也(中)  
 一(中)字(中)と(中)い(中)ふ(中)也(中)也(中)也(中)也(中)



其内ハ一ハ又カテ先シ只居  
 一 料印用後の半ニ身ヲ懸テ  
 之洞一シキ人ハ其ノ上ニ英志  
 備テ其ノ下ニ其ノ下背ヲ大  
 難ク其ノ下ニ其ノ下背ヲ大  
 多ク其ノ下背ヲ大

一 一人ハ其ノ下背ヲ大  
 之洞一シキ人ハ其ノ上ニ英志  
 備テ其ノ下ニ其ノ下背ヲ大  
 難ク其ノ下ニ其ノ下背ヲ大  
 多ク其ノ下背ヲ大

殊礼ハ礼ヲアツクニシテ

三六〇  
 礼儀状百二ノ三拾ヲ  
 九ノキリ三月ト見テ

礼紙

真 世情  
 行 名ノ下  
 草 海

一 拾文ノ半上右ハ二右ノ曲尺の  
 拾文トシテ下中ニ先シ右内  
 切テカトシテ其ノ下中ニ先シ  
 留トシテ別紙ニ先シ其ノ下  
 根付結句ノ礼ト混シテ其ノ  
 或ハ其ノ下中ニ先シ其ノ下  
 半ハ其ノ下中ニ先シ其ノ下  
 在代古法ノキヲ其ノ下中ニ  
 用之儀ハ二九三六十八ノ曲  
 尺ニ先シ其ノ下中ニ先シ其ノ  
 下中ニ先シ其ノ下中ニ先シ  
 其ノ下中ニ先シ其ノ下中ニ  
 其ノ下中ニ先シ其ノ下中ニ  
 其ノ下中ニ先シ其ノ下中ニ  
 其ノ下中ニ先シ其ノ下中ニ

名字及して其名字を添へたり  
ハ其名字を添へたるハ其名字  
おとすや

一 病人見直の事御おりの事  
こと同字うしり必まへへん

日文如く花子或ハ痛齋或ハ  
多岐候ともまふハ書流法

又病人の名或ハ彼或ハ余  
書流法を法として

一 書流の奥を打事せしハ  
五分ハ同字ハ五分ハ同字ハ

一 堅文と押平らしておろく  
とまハ初候書流泉流の法之

押ししハ日坐流法  
是ハ五事として今信

押ししハ日坐

指結文おりの事ハ  
此ハ流法

一 又又潤付者しき高ハ其  
潤ハ一重ハ其潤ハ二

ハ其潤ハ其潤ハ其潤ハ  
其潤ハ其潤ハ其潤ハ

一 其潤ハ其潤ハ其潤ハ  
其潤ハ其潤ハ其潤ハ

一 其潤ハ其潤ハ其潤ハ  
其潤ハ其潤ハ其潤ハ

一 其潤ハ其潤ハ其潤ハ  
其潤ハ其潤ハ其潤ハ

一 其潤ハ其潤ハ其潤ハ  
其潤ハ其潤ハ其潤ハ

跡ハ其潤ハ其潤ハ

一 其潤ハ其潤ハ其潤ハ  
其潤ハ其潤ハ其潤ハ

かたきまねくさひし

一 初ら書物に小中毎上たとも

かし国生とま終より於白後

志下流大下流をよまてし

一 大車及包の情と申出のてく

折り返くまき又及物取

を切細く加花の文を函こ

一 舟中(舟中)仍返く留を流

る所判由に沈まゆぬ他へ

くく

一 軍中へ書物及書の名と射ら

たのち(あま)し早湯法を得

とまて之陸中へ出の州に射

の泉石の得てまよの出保

まねよの之をばる名

ちたて

一 昔別まねの送字をよのて

点を符えたるよりを新く

たよのまの出れよりまの

取をるよりし但修り借に

取けたれ池文お、必事と古

まるとく

一 同派池文お、いふも百字あり

書あふまへし、まの法濁不

より文成、天合の半生を那字に

かゝ小半くちまて

一 本号の書の池文帳日記目録

おの折くまへし、照録にま下

折紙付本号の付本号の付に

病ありこと斗まて、本号の改

年月日、本号の字、一字下

て書く

一 全記の日記目録池文より  
より名を字名年、刊行  
とて半書に付、名を  
との

一 上流と下流の同り  
人あり、不宣とせむ  
池下し、上流、帝勢、  
入流、同書

一 卦砂とさの辨、  
悉く、同書、  
万その半、  
辨、  
一 新清の書、  
悉く、  
悉く、  
日記、

一 新清の書、  
悉く、  
悉く、  
日記、

一 石牌と、  
夫し、  
付、

一 石牌と、  
夫し、  
付、

一 石牌と、  
夫し、  
付、

一 石牌と、  
夫し、  
付、

一 石牌と、  
夫し、  
付、

一 石牌と、  
夫し、  
付、

一 申、

まじり

時分りの中の中とわり

用台守若佐州貞宗の字氏

と移上同安をくはふ

一 矢印の半間ハ字取 圓調ハ

和目平想の心ハ一移ハ銀形

ハ一調と有

一 鉛布の紙(おまじ)紙を濡す

此書直果を流す

一 石條洞條の紙を書けり字

不遠取 四方キハ見吉形ハ

紙ををくまふハ地師の点

とて三角の点を用う

一 油紙ハ久敷ハ墨ハ寸付ハ

濡してを直す

一 細行て墨を寸付ハ形あり<sup>10mm</sup> 紙

を入る

を

矢印ハ上ニシテ

一 標おき付ハ毎の字を括わく

ハ空紙水ハ用(し)譜を名

半付ハ墨を寸付ハ紙中ハ

一 矢印を寸付ハ耳の垢と墨ハ

抄交(し)墨ハハハハハハ

又墨ハ泡立付ハ耳垢をハハ

紙の中ハ耳垢を直すハ耳垢

あり

一 折ハハ墨を直すハ半 抹墨を

紙中ハ入る

一 色紙ハ墨を直すハ寸付ハ<sup>モリコメ</sup> 糖の粉を

紙中ハ入る

一 額ハ流汁希ハ墨紙ハ紙ハ紙

移ハ紙居ハ額ハ墨紙ハ墨紙

横板ハ几下ハ墨紙ハ紙を

折ハ紙居ハ又ハ紙をハ紙



一 初く二の名山山海經といふ巨角  
 圓形に常より二角は洞府の  
 時也

一 晋書法本守二人の守分  
 並みす二ふり

一 晋書法の本書に懐く入夏に  
 掛直秋に伴少色冬に服少色  
 直し古年の墨はく

一 札付法長と二天寺、唐と二天  
 二寺とも寺とて是定法  
 守のうきな年、右の守の  
 扱定法にわの守、は毎

一 かしやくらりし物とて是、  
 新撰りては神の事とて、  
 のしりて一説、洞府の物を  
 守りては、  
 七言にふるは守り

一 上古中古を代尚世とて、  
 非武帝より配砌帝とて、  
 代を上古といふ配砌帝より

一 今とて代は守を中古とて  
 守り後配砌と十七代の  
 由を代とて、又守り後尚世と  
 唐初の書に、上古伏羲中古の  
 文王後古といふ孔子也

一 澄は日知といふ推古帝の四守り  
 初、神武帝より辰、澄は守り  
 有り唐太宗の世、孔子  
 文宣王と澄は守り大なるを  
 士成成王老子と唐の守り  
 守りて、元皇帝と澄守り

一 宋号漢武帝の時、建元宋号  
 初、日本といふ孝徳天皇大化年

東平進退  
分別ナリ

甲卯

一 出陣に付字を因由陣  
に於て流例に因出  
首途とす

一 勅撰此秋草子塔波  
ゆはり中より次泉家  
又於石家天台より山門  
申す寺門に必懸ふ

一 八割を府より二時  
辰と日とあり一日を  
作ると之を為る氣二  
月と辰二月を辰と  
未と辰旬十日二氣

一 刻に九洞府に西南  
紫野黒地の手を不用  
礼用記とす奉表の月

此の今候に周見  
死者の友名に守以  
佐佐木とす

一 御符の半より  
御符の半より人の名  
眼符の墨法を半の  
半あり

一 御符の半より  
御符の半より人の名  
眼符の墨法を半の  
半あり

一 御符の半より  
御符の半より人の名  
眼符の墨法を半の  
半あり

一 御符の半より  
御符の半より人の名  
眼符の墨法を半の  
半あり



見(仰)たるは流る事ハ伊夏の  
修善寺(初)て名取(一)す(一)初  
名子(一)と(一)色(一)如(一)印(一)色(一)依(一)由(一)  
名(一)と(一)氏(一)宿(一)所(一)の(一)流(一)雲(一)依(一)之(一)依(一)  
依(一)在(一)所(一)と(一)勅(一)書(一)の(一)書(一)所(一)用(一)  
軍(一)儀(一)の(一)初(一)馬(一)軍(一)儀(一)所(一)此  
所(一)の(一)事(一)と(一)

- 一 月支(一)玉(一)石(一)城(一)と(一)天(一)竺(一)の(一)半
- 一 也(一)晨(一)旦(一)東(一)域(一)と(一)唐(一)の(一)半
- 一 大(一)日(一)本(一)玉(一)日(一)城(一)と(一)初(一)の(一)事(一)
- 一 王(一)舍(一)と(一)天(一)竺(一)の(一)教(一)を(一)長
- 一 安(一)地(一)と(一)唐(一)の(一)教(一)を(一)平(一)安(一)地(一)
- 一 日(一)本(一)の(一)教(一)の(一)事(一)
- 一 天(一)竺(一)曰(一)地(一)刹(一)利(一)王(一)孫(一)波(一)羅(一)門(一)有(一)名
- 一 昆(一)舍(一)高(一)首(一)陀(一)農(一)の(一)唐(一)の(一)事(一)
- 一 妻(一)氏(一)呂(一)氏(一)利(一)氏(一)貞(一)氏(一)曰(一)姓(一)之

- 曰(一)源(一)平(一)藤(一)橘(一)之(一)是(一)分(一)て
- 一 百(一)姓(一)と(一)公(一)家(一)の(一)母(一)氏(一)武(一)士(一)八(一)十
  - 一 氏(一)之(一)姓(一)の(一)生(一)之(一)是(一)流(一)と(一)と(一)
  - 一 是(一)を(一)て(一)お(一)せ(一)と(一)下(一)百(一)姓(一)不
  - 一 及(一)と(一)と(一)け(一)姓(一)の(一)名(一)改(一)之(一)氏(一)は
  - 一 古(一)者(一)と(一)姓(一)を(一)氏(一)と(一)封(一)と(一)
  - 一 可(一)を(一)氏(一)と(一)名(一)を(一)氏(一)と(一)官(一)を
  - 一 心(一)氏(一)と(一)名(一)を(一)氏(一)と(一)一(一)殺
  - 一 名(一)の(一)氏(一)と(一)名(一)を(一)氏(一)と(一)源(一)の
  - 一 自(一)て(一)分(一)た(一)る(一)名(一)を(一)別(一)者(一)の(一)殺
  - 一 世(一)あり(一)て(一)一(一)妻(一)と(一)名(一)あり(一)と(一)と(一)
  - 一 曰(一)姓(一)母(一)衣(一)文(一)字(一)源(一)氏(一)武(一)所(一)平(一)氏(一)
  - 一 天(一)衣(一)者(一)氏(一)の(一)衣(一)衣(一)橘(一)氏(一)の(一)習(一)之
  - 一 一(一)記(一)一(一)周(一)十(一)二(一)事(一)一(一)世(一)と(一)
  - 一 此(一)本(一)一(一)世(一)と(一)二(一)本(一)一(一)首(一)丹(一)
  - 一 本(一)代(一)の(一)父(一)死(一)て(一)子(一)嗣(一)を(一)と(一)父(一)子

古代と世と云ふこと

一 歳ハ夏代月祀ハ殷代月  
本ハ月代月載ハ唐代月  
暮ハ日代月白ハ天竺ハ未用  
一名ハ内別ハ子生テ二月ハ一  
名付トシテ日ハ一ハ古折小  
家ハ古漢の名を有ハ家名を  
張也ト云

一 字元服トテ名付トシテ  
一 二十トテ冠トテ字を  
付トシテト云トモ思ハトシテ  
リトテ元後トハ内重名ハ  
九号を除キ年次年ト云ハ  
トモ候名トテ名を改メハ  
古事ト云ハ 古漢ト云ハ  
古事ト云ハ 古漢ト云ハ

古事の法

一 桃井ト云ハ武家ト云ハ  
トモト云ハ小称号ト云ハ源氏  
候名之官を長任内ハ百官ハ  
官名を内官ト云法ハ内官  
トモ任を内官ト云源氏候  
法ハ中系小柳大江官系大  
姓トモト云政官ト云トモ  
トモト云名ト云トモト云武家ト  
名ト云ト云

一 元正天皇ハ神宇小州母ト云  
分ト云を造物ト云中ハ  
神ト云ト云神ト云ト云  
用ハ神ト云神ト云小ハ身ト云  
天武天皇ト云ハ六十六ハ  
今ハ 成務帝ハ神宇小ハ

縣と分て村屋定るといふは  
 石の目、石を石の中縣を縣  
 の中、石有、石の村ありと  
 いふは、石を石の村ありと  
 といふは、石を石の村ありと  
 といふは、石を石の村ありと

- 一 じり、知り町割之、尚、小
- 一 石、中、中、田、一、石、二、斗
- 下、田、一、石、三、斗、石、盛、斗、身
- 捨、町、一、町、と、移、之、中、法、法、法
- 割、之、十、斗、百、石、百、斗、石、石、
- 尚、分、永、樂、の、割、の、法、と、す
- 即、去、の、人、石、下
- 一 十二時、突、名
- 平旦、寅、日出、甲、食時、辰
- 暈中、巳、日南、午、日英、未
- 晡時、申、日入、酉、黄昏、戌

人定、亥、夜半、子、轉、修、也

- 一 十、干、突、名
- 閑、逢、甲、旃、蒙、乙、柔、北、丙
- 強、圓、丁、著、雍、戊、屠、維、己
- 上、敦、庚、重、光、辛、玄、默、壬
- 昭、陽、癸

一 十二支、突、名

- 因、敦、子、赤、奮、若、巳
- 拱、提、格、寅、單、闕、甲
- 執、除、辰、火、荒、落、巳
- 敦、揮、午、悅、合、未
- 泥、難、申、作、靈、酉
- 周、茂、戌、天、淵、獻、亥

- 一 祭、春、祀、夏、蒸、秋、嘗、冬
- 一 持、春、蒐、夏、改、秋、櫛、冬

一 三句 冥名

上句 孟句

中句 叔句

下句 季句 下洗と云

漸ハ洗ハ流ト同シ

草露傳

二

一 料紙品の半法安乳室お下  
 人二位ハ平倍ホ六摺糸ト  
 折糸守堅又九寸八分ハ位の  
 面ハ五寸五分五厘ハ二尺八分  
 口位ハ守七分五厘ハ一尺寸五分  
 二位ハ六寸五分五分ハ一尺  
 守二分五分ハ五厘ハ八分ハ  
 位ハ一尺ハ

草露傳一 二位一尺五分  
 二位一尺五分ハ位ハ一尺  
 守六位位ハ一尺二寸ハ  
 又一位ハ一尺五分ハ一位ハ  
 六位ハ一寸五分ハ一位ハ  
 草露傳一 古法ハ折糸

聖の書と云ふは、  
しりしは、  
ホ、大言、  
候りし、  
法、  
要人の、  
よは、  
罪、

一 律書裏の法、  
此の表を、  
を流流、  
懐、  
一 書、  
長、  
の、

守、  
寸、  
と、  
傳、  
弟、  
仰、  
弟、  
狂、  
よ、  
と、

一 重、  
半、  
表、  
右、  
取、  
書、

書を添子自中の如し

氷部之法部後法部佐部

にて上杉家の官位職名

とけし白傘侍色纏の靴

霞文の書書とよむ所

是と味一(池田)三藏(由

信元の中)と書部せらる

人おのゝ書書法部(由

書とありと記部とを

まはる

一書部の名をゆふたど

冠一寸の附の書ハハハハ

冠多の附ハハハハハハ

半附半出とて然りしよ

半中より書を書て書部

別取とけ居(とる)

三藏仁木 御川 全川  
御致せらる

一文字移しとて半 不吉を希とて

とて法部とて又書人(とる)

名を希希、不似合早谷の文

とて半(とる)

一書切書を書法部人名と院号

部名佛名部は多額の名

部部の名と不文と一(とる)

の由と切(とる)

一冠不吉字の半 半部(とる)

作部(とる) 半部(とる) 裁付(とる)

半部(とる) 半部(とる) 半部(とる)

半部(とる) 半部(とる) 半部(とる)

半部(とる) 半部(とる) 半部(とる)

半部(とる) 半部(とる) 半部(とる)

半部(とる) 半部(とる) 半部(とる)

半部(とる) 半部(とる) 半部(とる)

- 一 抄巻師と修撰とを同く半  
願巻の取見と云ふと家目  
管統の内河半之細川源朝  
自云と云ふ書と及一説と  
一 付知と云半これハ抄巻師  
の中之内河と云ふ書と  
一 又の方ハ抄巻師と云れし  
も付ハ居不の名を月日  
よて書ふ人ハ法中未法南  
書中と書ふ人ハ官官名  
斗く

と云法と云 家目名

法恐法修撰と云

及修撰と云

月日 式部少輔 法長

綾小路寺屋形

未法南書中  
法中

- 一 又より子の方ハ名斗と云父  
名多有り又官名家斗と子  
の名ハ未法書と云修撰以海ハ  
を云と云と云
- 一 叔父兄ハ半抄の半又回半の  
叔と云ふと云と云し兄より  
片ハ双方名字ハ半抄して  
親見ナリ中ハ名字を云と云  
事古法之但依云一坐付各  
列と云と云
- 一 回南と云西ハ又未付ハ名字半  
に不及之回南誰ハ合と云
- 一 之ハ息と云と云と云ハ云人  
回と云と云と云と云と云

一 此の字をなすの付にその名の  
 こと下にしりし  
 一 赤子とてい親の人の性質因に  
 したるしとていふくも同とてい  
 たるものありき

一 人の名をゆめ下とて切て手  
 履くは内宮より名を  
 名め切てくは名者

一 此の字より只馬名法ゆめ  
 無の次連次靴鞠未し  
 一 書心の奥を半一寸八分を  
 たり法きいれぬり紙

一 此の字より法きいれぬり紙  
 之合一より打てき色あり  
 一 百字とて自合形とて  
 此の字より半紙の字あり

尾流あり

一 切字の末思合 又又系と再  
 之先法外への板の縁の字  
 と切り又ハ書を録へく

一 半角小打切海多内と半角  
 又此系小打と手へく

一 如きとて字なきも亦半紙  
 ありぬはは字ありぬはは  
 なることあり

一 随か子身祝門入るは信  
 あり半紙底動に洞し書を  
 録あり

一 結冬月と二三字法とて  
 履くは内宮より名を  
 由一回通とてききらの心  
 あり履くは内宮より名を



一字下けま

一 傍 綴方(所名字)も子も古法  
より綴方のより菊亭及段之

一 糊封の紙、書ふまゝに綴付  
じきり法を毎朝糊封の  
物有りよをを物常と見たり人  
の綴付るよと云人より之教と  
肩名有りまへん

一 半紙の末にて内別抄自是  
の題よりハ法詔とまへん  
人ハ半紙抄と云(他書)  
ハ必今言ハハ法詔と云半紙の  
古書と云

一 書本の封紙ハ色も月り  
とまへし又さかかると書  
法ハ紙とあやと知ると云

為

一 墨漬の末一紙まきて能

材法と云て法落紙又ハハ  
能と云人かよの名ハ法落の

一 墨の落と云又ハ名子  
又ハ仮名と院号と書右の名を  
符と皆くしハ字宛切墨  
と能ハハ又一字法落法落

ハハ又ハ落氷とて半紙の  
皆ハ下ハ法ハ奥紙氷とて  
ハハハ右落氷とて奥紙  
氷をけり下ハハ又ハ落と  
ハハハ落氷綴付を指す  
ハハハ落氷と云ハハハハハ  
と云ハハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハハハハ

一月の間に門外名系列取  
半々半々人の法く示人は  
幸とある

一 折紙半帖と重紙縛てとく  
海斗半歩くは文を三行  
半とある

一 尺札、呂別と半半即報  
文は一五紙と一六紙何を移  
別村の川田持とある

一 的便と半半の幸路ととも  
この日の内、居柳とある

一 幸路と半半の幸と路ととも  
共し回幸かとしと半半の  
回幸の由としと日教と路ととも  
ハ半ハ

一 半中、各と半半の由、賞

祝の人のうらなりの市と幸  
と能事古事と

一 一書と一書と一書と一書と  
半半の中、一書を多半半

一 書札、別封と半半の日と名宗  
の字かた、幸宗別かと半  
ハハハハハハハハ

一 礼紙の調紙

乃半始、半礼半半  
一 勝光、半馬、一足、麻、波  
進上、半取、表、半、半、半、  
半、半、半、半、半、半、半、  
半、半、半、半、半、半、半、

山名  
月日 大和寺忠久  
淡上右系史殿

官主人ハ其ノ友ハ各々依  
 名者乃其名宗ノ上、源太久  
 平主政外々如中一上色  
 友主人ハ重、名字表、官主人  
 名者主人ハ重、山名法法法表  
 源太久と中半、社行の法  
 又宗宗宗人ノ至世同好  
 主ハ中半ノ古名也、社行の法ハ  
 信者ノ中半武法ハ終止  
 之ナリ

一 社行の法ハ中一豊行一重、  
 又中と中記  
 社一板ト色  
 二板ト色ト中と中ナリ

一 社行の法ハ一重、又中を調  
 社行一板ト色一板ト  
 二板の法ハ社一板、調て社行

一 板ト色一板ト右ト辰何ト  
 昔ノ肝重の情ト云ク

一 小又社行ト云中ノ又ハ  
 揚重を中ニ切調ノ名子ノ内  
 豊、中ニ接、一合切致中  
 二合接、中ニ接、一合切致  
 中ニ合、中ニ接、一合社行、  
 中ニ接、中ニ接、一合切致  
 中ニ接、中ニ接、一合切致  
 中ニ接、中ニ接、一合切致

一 小又社行ト云中ノ又ハ  
 揚重を中ニ切調ノ名子ノ内  
 豊、中ニ接、一合切致中  
 二合接、中ニ接、一合切致  
 中ニ合、中ニ接、一合社行、  
 中ニ接、中ニ接、一合切致  
 中ニ接、中ニ接、一合切致  
 中ニ接、中ニ接、一合切致

切放紙織田二分とし上包  
 して上下と捲り目あか  
 くれを一紙二紙の紙を  
 之を京市守本三紙の紙  
 目あか  
 鳥子の母  
 子切

上包	紙
下又	紙
下又	紙

相葉紙  
 切

一 堅みの半一辛、潤色一枚  
 横折色一辛を捲り上包  
 玉捲押折り上包も巻紙  
 紙一辛は脚と晴の脚と官  
 位元服移折紙要本紙  
 白木用

お本紙、清紙、清紙  
 一腰、先、清馬一尺、巻紙  
 進紙、作、折、紙、系、合  
 一辛、伸、り、之、紙、清、紙

月、  
 山名、大和守  
 三好、信、隆、守、殿  
 今、辛

三好、信、隆、守、殿  
 今、辛

裏  
山名大和守

のトヤ

ヨリミテ結フ

一 小文の半を子ししと杉木とし  
 葉切して潤ぬまかきと色と  
 握ぬ堅文同士の摺糸の内を方  
 と狭切してこれと牛牝の毛見  
 能く遠西一と毛と固由防密の  
 叶の葉の布の口唇を  
 一 内封の半一玉の包に防密の  
 妙と糸のまき包(用)防密の  
 智と針糸防密文のうけと  
 糸糸を細針で糊して付裏を  
 針糸と細針を切略紙の細包  
 として糸と拵を成し押打略  
 由糸の糸糸まね防密文同士の  
 一 細文の中 防密一まき潤糸

うを細針を針一糸糸まね  
 防密同士の表と糸糸防密を  
 目付の奥一まきの裏(まきと  
 阿の細をまきと糸糸まねを  
 糸一)

一 防密糊付の叶は大筒入法  
 の法より細針糸の拵を  
 目付列糸糸を固くして  
 防密の防密糸糸を固くして  
 一 防密由針の叶の中一糸糸用  
 防密の用糸糸を拵糸糸の  
 人の糸糸を拵糸糸を固くして  
 糸一)

糸一  
 為所代替は防密糸糸  
 一 腰糸糸馬一足 麻糸糸

進上ノ儀付等ノ後御  
席ノ別ノ宣紙付被書作  
之ノ流儀ノ遺壇流儀

山名或納書  
月日

松尾備後守殿  
山名不

右を由の松尾御等又殿付  
以て之を宣紙とて全代ノ宣紙  
の丹紙と御付人ノ席中ノ凡  
松尾御等先ノ主人ノ位自今  
の友位ある日ノ宣紙付三ツを  
考調之

并ニ東條松尾  
付之級宣紙トシ

〇松尾不流ノ宣紙

名字  
月日

至極ノ紙ノ後卷ノ  
書ナリ

進上ノ宣紙名付

并ニ去宣紙

今度流儀席首尾好波  
付有之旨御付上宣紙  
因茲流儀席毎色波進  
上付付可御流儀作  
某紙恐積之

名字  
月日

居不  
唐名等云  
名系等云

系ノ宣紙中

并ニ宣紙

是レニ重田トテ致アリ

今度清土落ノ別ニ是レ  
此ノ中情ニ至ル事好  
仍何レ改定後ハ自解  
出ル面下ノ方ニ清土  
巡檢様云

名字宿

実名

月日

伯州指

伯耆守指

山伯耆守指

今ノ法中

差露傳右由通之由礼  
極高ト人古法片存  
沙法中

礼尊報 尊旨

月日

改革ニ未定於今迄  
未四作於幸甚  
不可且已報柳何レ致  
未定府ノ之由露傳

名字宿

実名

月日

山伯耆守指

今ノ法中

礼尊報 沙法

月日

力嚴著、少段候何レ  
之近入ノ表嘉候  
今ノ於東陽一ノ中候  
之由露傳

名字宿

実名

月日

山田由記指

名字宿

近江の志

并七

良久中身は海に  
くまふ事十七、細川後  
招き名籍より入来  
下りてくまふ事

山成中浦

月

実名

朽木清三忠友

近江の志

并八 打付書

主御のわが赤飯何れ  
給合海程は海に

月、 或初中浦

世屋中紀友

并九

わが始々傳受入来飲  
けり為謝礼の事也

月日

官年。下りて  
実名利

後ア若人の事

後ア若人の事

右之れと也苗と云ふ事  
半を半放半意と云ふ事  
百世玉の事也

一 半切半鏡手切

今度八幡殿痛急重浪大  
庭中中州の事早し  
半字も一浪五浪と云ふ  
論よりいふ下り運上中肝  
要之仍執達御

武蔵守

月

近江



清政不

右是也尹切上云君受治政之  
又白书切似治下

一 書局十二辰字

斗一 按嘉庆

斗二 按嘉庆

斗三 按嘉庆

斗四 按嘉庆

斗五 按嘉庆

斗六 按嘉庆

斗七 按嘉庆

斗八 按嘉庆

斗九 按嘉庆

斗十 按嘉庆

斗十一 按嘉庆

斗十二 按嘉庆

斗一

斗二

斗三

斗四

斗五

斗六

斗七

斗八

斗九

斗十

斗十一

斗十二

斗一

一 嘉庆十二辰

并一 嘉庆

糸布出包名敷 糸布出包

才二 抄巻水

出司名敷 徳付之し

才三

居備名付 居不

才四

実名号之

才五

唐名号之

才六

下月之 在月之更振之在唐  
上唐之月之

才七

官通斗 名号之降之

才八

片名号 揚州 夏州

才九

片名号官

才十

名号官 全代信色上唐  
才

才十一

名号友友

才十二

名号友友

一 腹付十二尺

才一 志在九子冬墨色  
招舟之而十車更

糸人 抄抄巻

才二

糸法全信中 出番中

才三

糸人 抄中

才四

糸人 抄中

才八

才六

才七

才八

才九

才十

才十一

才十二

才十三

才十四

才十五

才十六

才十七

一 子信途才八

才一

名字信才八

才二

名字友才八

才三

名字信途才八

才四

名字信才八

才五

名字信才八

才六

名字信才八

才七

名字信才八

才八

判斗

一 尺九寸十二辰

- 才一 冲書
- 才二 号書 号札 号書
- 才三 出札 出箱 出書
- 才四 清札
- 才五 牙札 牙箱
- 才六 心札
- 才七 朱札
- 才八 朱書
- 才九 口書 巾 清消息
- 才十 堂札 炭札
- 才十一 清捲 玉系
- 才十二 厚札

右色之入 奇用由下二念  
事心付ハ的々羽振也

才一 何名安中級一七  
才二 何名安中級一七  
才三 又之何ハ清書 出札  
才四 又之何ハ清書 出札  
才五 又之何ハ清書 出札  
才六 又之何ハ清書 出札  
才七 又之何ハ清書 出札  
才八 又之何ハ清書 出札  
才九 又之何ハ清書 出札  
才十 又之何ハ清書 出札  
才十一 又之何ハ清書 出札  
才十二 又之何ハ清書 出札

一 尺九寸十二辰

- 才一 番号銀人 清中
- 才二 糸号銀人 清中
- 才三 出箱 出書
- 才四 出箱
- 才五 出箱 出書
- 才六 出箱 出書
- 才七 出箱 出書

一 書留銀人 出箱 出書

片致事

忌増遣

今中 序者不

忌増遣

序者不

一 敬文字

殿殿殿殿殿殿

殿殿殿殿殿殿

一 昔押渡後文字を通過

此は是利平満との比より殿

格とて同世に少く呼ばれ候

の候より格を以て貴統の格に

同し候とて一に今上式に

候とて名を以て候

一 様文字

様様 様様 様様

一月日上下名筆取

極極 極極 極極

忌増遣

正月十二日

凡下

中

上

上回持

一 女中

今度 女御様中入内子秋

万葉風流 無常石忌

同封度 上は侍序

何れ候 上は侍序

法持落 上は侍序

月日

名字宿

三條殿

如左

一 冲毫指法入致古案

今度 冲毫指法入致  
千秋万代 幸甚幸甚 固后  
何之 进了 仕候 古案  
冲毫 到 家 出 始 落  
忌之 深之 忌 控 控 云

月日 名字官

名字官 敬

右以 冲毫 指法 入致 古案  
冲毫 指法 入致 古案  
今度 大納言 仕候 古案  
冲毫 指法 入致 古案  
一 冲毫 指法 入致 古案

一 冲毫指法入致古案

右以 又 他 古案 冲毫 指法 入致  
冲毫 指法 入致 古案

名字官 敬

月日 名字官

今 八日 他 古案 冲毫 指法 入致  
冲毫 指法 入致 古案  
冲毫 指法 入致 古案  
冲毫 指法 入致 古案  
冲毫 指法 入致 古案

一 冲毫 指法 入致 古案  
冲毫 指法 入致 古案  
冲毫 指法 入致 古案  
冲毫 指法 入致 古案  
冲毫 指法 入致 古案

淡々

名字信

月日

名字信殿様

〇〇〇〇

右中... 淡々... 名字信殿様

一 名字信殿様

一 名字信殿様... 名字信殿様

淡々

月日

名字信

名字信殿様

〇〇〇〇

古文... 名字信殿様... 淡々

生... 夜... 名字信殿様

口傳

一 皇子降誕事状

今度、中宮様 皇子  
降誕、乃、是、日、皇、女、上、御、  
因、後、方、降、誕、後、降、生、  
一、胎、馬、一、疋、御、上、仕、作、此、  
亦、一、紙、宣、紙、降、誕、事、  
及、降、誕、事、

右、中宮

月、

三條殿

未、く、中、中、

如此開字、同開字、

右、降、誕、事、之、系、後、之、事、  
中、宮、后、云、降、誕、事、  
御、所、之、之、外、の、降、誕、之、降、  
誕、の、時、之、事、 皇子、降、誕、  
誕、事、一、一、 王、家、の、降、誕、

降、誕、と、謂、よ、め、け、方、官、作、の、  
こと、より、文、言、一、篇、有、之、

一 若君降誕事状

今、度、中、宮、様、降、誕、事、  
降、誕、事、若、君、降、誕、事、  
公、方、降、誕、事、  
千、秋、万、葉、古、事、記、  
降、誕、事、同、降、事、也、  
降、誕、事、同、降、事、也、  
宣、紙、降、誕、事、  
降、誕、事、

右、中宮

月、

三、右

右、中宮

未、く、中、中、

右、文、之、降、誕、事、

降、誕、事、







年々半三日月之状に暗きと  
半三日月の片は異なり  
一六分と半一しと申す  
名異と半三日月の明しと  
叶新なり

一 兼定

兼定は沙流の目録  
とあり沙流の目録  
之と述入し抄書  
下流の抄書

月

名子官

名子官

右文之書人  
名子官

一 未始

改年之書人不可  
陰之書人不可  
一尺之書人不可  
何と云

月

名子官

名子官

右未始は  
序は南の書人  
名子官  
二月に入  
抄書

新奉と云ふ二月の...  
 ...  
 ...  
 ...

一 五石白粉

一 一斗令...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

月

名字官殿様

...

...

一 目尻丸

此丸...  
 ...  
 ...  
 ...

上...  
 ...  
 ...  
 ...

月

名字官殿様

...

右...  
 ...  
 ...  
 ...

一 女中...  
 ...

一...  
 ...  
 ...



春くまかば留字とくふ  
と女字といは女中いふか  
又女中の女中いふまは院  
とまへしうふのわんハハ  
一玉しは月うまふ及ん出  
春月い月しあふと洞のま  
くし名手清くまふのわ  
かふままきのわんハハ又  
洞中くまふ能く女洞  
とめかを怒くまふ  
しいろはくまたいわん  
ふ洞清くまふ松まふ  
はくかといまふくまふ  
りくまふくまふ  
柳の枝を月の出れくまふ  
都てくまふのま松まふ

一 女中い 後付い 女房さ  
な

才一 松露文

才二 柳文

才三 松人いトまふ

才四 くまふ

才五 中あく

才六 柳文

才七 松と才

右松文いまふの月

くまふくまふ

くまふくまふ

くまふくまふ

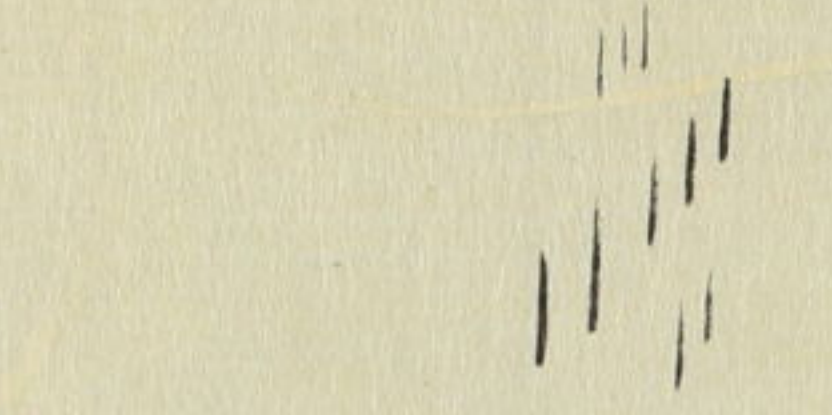
一 女中い 後付

一 女中い 後付

うつくしの山崎屋う  
しきたるすなはちやうはな  
〜~~~~  
ふささ〜としよるふささ  
あき屋か〜しせ〜ま  
〜~~~~  
お〜〜しよる〜し  
は〜〜ら〜〜あ〜  
〜~~~~  
一色あふ〜けり〜  
い〜ら〜ら〜  
〜~~~~  
〜~~~~  
〜~~~~

山見

四つやう白  
ら〜〜〜〜



右条にそ〜〜を在  
極〜として聖文の読本は  
神〜々り、あ〜〜ら  
神〜の留〜し〜か  
〜~~~~  
〜~~~~  
〜~~~~  
〜~~~~  
〜~~~~  
〜~~~~

お〜先の〜  
〜~~~~  
一〜お〜ら〜ら  
〜~~~~  
〜~~~~

いんくそとせと

はそりんを

ら〜先ら〜

ら〜道安め

くすく

目録

〜

け〜か〜

〜

り〜

〜

か〜

おね

ら〜

右を照るのか〜と云々  
立名小浪舟の神を  
り小字入敷主〜

落依の喜いわさとの伴揚夜

山崎の鈴魚ののきけ

下は〜何やら葵摺子牡丹

枯の素紙の糸糸萩菊

る〜く〜ハ落雲をのけ

又紫井村の音を〜水の

鏡を〜く〜古法を

洞〜く〜或記小〜

紅糸糸の落依と〜

と〜

一 女中又〜と化出〜

目録を〜と〜池〜

池又〜と〜女中の親見

了太の判取女中の名の下

子セを〜例〜と〜又女中の

名の根、親見舟の名を



一 法別取とてす法とす  
一 如申方とてす(の又御月)  
略之れ又下とてす(色とて押  
打し内のとてす名をす  
子成なり)

一 所り又古案

法別取とてす字年  
は内ハ必神の法別取とてす  
名を安とてす今とてす又とてす  
名入内ハ必神とてす今とてす  
名とて神法別取とてす今とてす  
又ハ日の下とてす(神  
は内ハ必月の下とてす今とてす  
の所り法別取とてす)

下〇 吾我在(耐所册)

可今早版(用所册)  
亦田保(右所册)  
切之(貴所册)今とてす  
者守(名所册)可法(法  
之状所册)

親原元十二月七日

下〇 吾我在(耐所册)

攝廣國中

右先代(可領所册)今とてす  
亦田保(手任所册)今とてす  
領(堂所册)今とてす

永正三年八月二日

吾我在(耐所册)

一 奉書下文

下○吉田社領酒戸古佐  
河傍赤郷住人小  
交浦回職事

大舍人忠恒

右人任文記ノ張頭定  
浦也者早也先例  
郷替事一渡沙法  
之状仍作此併不  
可遠去放下

又永三年十月日在為權留奉

一 清池法判為事

又之の内、下ノ人の名書入  
付ハ此等事ノ奥、名ノ付ハ  
法判ノ下ニ、法下又ハ少  
事ノ

武為田長久保事一不宛  
以長谷川 中替少補  
法長也者守先例一渡  
沙法、亦併

應仁元十月十九日

本苑此比全取事一不  
宛ノ也者守先例  
一渡沙法、亦併

應仁元年正月○

白山左馬介俊成

仁治守山御地頭方事  
為兵粮料一不宛事也  
早一渡沙法、亦併

應仁二年八月○

曾我左馬介尉俊

此ノ事ノ成リ、之ノ事ノ成

奉貞みくろしり之  
志のし使らなり  
きしなり

龍魚三月二十七日○

了のし北分

右ふり所判物

信濃山昌村七十貫  
軍右軍忠為加増  
元保可抽忠名は  
物外

奉号月日○

二階忠重

立文但遺之  
甲斐守府中領八百石  
普く水石遺  
物外

建武二年

七月五日○

山田忠房

為領約尾張必中沢  
内三千七百石  
即米下中付元全可  
可替也

文保元二月三日○

山田信房

後河内守  
右全可  
物外

文保元年

十月四日 奉  
左近将

今川右近将

今江口大上郡武千貫志摩  
由合志郷七百貫長門由  
次之郷三百貫都合二千貫  
余之奉右全可依知  
亡父茂人依右茂水可  
多相遠路知少一抽  
軍力是度仍中付知也  
執達出

又保三年二月十日武茂  
吉口飛松

伊賀國小出郷三何万石  
下之郷也今可令依知  
此出

奉号月〇

名字友と

右の如く依知堀内之事

一 武田書出奉

伊豫国小里村三何万石  
奉右任名例 元永元年  
今可令依知也

奉号

月日〇

名字友と

一 武田杖法一族

何處何郷三何万石出元  
今可令依管出併  
奉号月〇 法判

名字友と

一 武田法判也

武田法判也  
目録 奉右是行法并  
不知何万石部人百何万石

之書邊全一令修之  
也

未号月○

名号官より

一何万石 伊豫国何郡

一三千七百石 土佐国何村

一七千石 土佐国何郡

都合何万何千石

右之度為勲功ノ賞

與行年令令修之

并其地也

未号月○

名号官より

一親王御所ノ法務也

由砂山 山城国吉田村

由二千石元弘元年

大令一之清知り候

也

未号月 清澤判

伏見坂

仁和寺坂

通清坂

一清苑

乃何也 山城国吉田村

由何百石一之扶助年

大令一之清知り候

未号月 御津浦判

苑山院大納言坂

徳大寺中納言坂

一例式

由何也 山城国吉田村

何百石之北行年大令  
可知行也并志

本年月 法列并

日北去納之及  
柳系中納之及  
綿出路寧也及

大付布ハハは飯を食下り判  
去納之ハハハ知行也并  
井治所之志一七法判也并  
豊後律下 是下法並判也判  
本年の府法律下之志下之申  
はらるる也

一 与力新行年

中付与力之申

与力知行目録

九百石 山田五斗

一 三百石 松尾成約

一 六百石 井之之氷

一 四百石 佐藤頼助

一 二百石 永原宗女

人教五人

知り

合貳千百拾石

○  
大正九年 全共知行也  
本年月

名目  
名目  
名目

又右、人数就當年之申  
一、度之元一、改出は也也  
留府内横領之志、人教就  
之、申、之、一、元、元、元  
之、仍、并、付、府、内、法、律、也

一 肥前米書表

洪範一者五十九人為肥  
前米子儀元行年  
但三斗六升入者一人  
此信儀元并技持牙  
寺人一人或人技持、横  
可下好也

又永二 中書下  
三月二日〇

一色三田より

右何之流、公儀並下御あり  
沙科次、担持也

一 國持、方、形、格、表

分、必、吉、同、助、之、由、於、何、村  
何、千、石、廻、轉、東、一、石、行、年  
今、言、知、以、所、解

年号

月日 名、寄、判

名、寄、友、友、友

名、寄、友、友、友

名、寄、友、友、友

右、寄、判、の、人、物、は、ち、り、主、の、  
官、名、又、は、名、寄、判、或、は、判、斗、令  
下、居、知、所、解、今、六、石、寄、之、  
と、言、員、之、言、ハ、由、り、の、才、分  
必、執、中、之、由、於、何、村、何、由、  
中、何、年、と、年、と、之、と、年、十  
代、并、植、云、畑、畑、の、以、米、寄、  
少、年、の、亦、由、名、を、寄、之、  
名、寄、何、那、と、年、之、と、年、  
亦、何、と、渡、の、面、は、支、延、之、  
於、何、村、何、石、之、寄、判、也、

戸石正生  
戸石正下  
横

於何那何村自何百六中付  
早古江寺之料所ハ檀子をり  
杉木とも此寺を因事之儀也  
聖師と括弧の只居る也

一 茂米知り所

由新知三百六中付年  
合し市勢一箱すゝる也

本号  
月、中判  
名字及よのく

右方事連、主儀名  
能うすゝも古勤由新知  
三百六、元飛り年  
全可収酒とや

本号  
月、中判  
名字及よのく

右方よりて永一収納とや  
永一市勢とておと又云  
洞名及所一言横、お中の  
お目、一乃、貞名をきこはを  
一乃の務とて元飛の所り  
左方との凡徳一、流り  
依り木茂言の品所とて  
山左

三百六中付年		
本号	月、中判	名字及よのく

一 茂米知り所



力加増三百石云其行元  
下知五百石形合八百石  
全不替之也

奉号  
月、申列

名号及上の

右何上上包体取四三  
色下押形元不色体の上  
も之なり

上田式部より

一 寄状の書出給ふは附付

山崎小柳沢村三百石半

右の寄

八幡宮沖領頭奉寄附也  
今と旧納専系濃臣抽

國家女預武運長久

丹誠之儀并

奉号月日○

法中

一 先列に付

為法依何處何村何千石

奉号先列上と奉附元

永代奉号と奉遠之也

奉号月日○

八幡宮 法中

當院依於何物何村何  
百石奉号任元例元  
元永元可と奉遠之也

奉号月日○

寺院  
院号

近江由伊吹郡吉島村三百石  
同由久留郡市島村二  
百石於合五百石之奉  
為商賈依之寄附年  
令可收納者佛事勤  
以無懈怠之抽由家  
安穩或運長久之積蓄  
者也

奉号月

寺号

院号

一 右派 上方様 寺領之  
法名之内 寺院号之 寺  
院号  
一 此持寺之法 寺院号  
合由何形何村何百石奉

右為常法

春日御神領奉寺附之  
令可收納之佛事  
殊畧恒例之奉祀者可依  
尚由營業或運長久之積  
蓄

奉号月 宿持主名

町由寺号  
法由中

當親依法後必領地  
吉島村之内 二百石之奉  
為附寄料可令寺附也  
令下之收納 寺院号

奉号

月日 別又

佛法寺

觀音院

乃乃海而之奇附也合  
之而遠之也凡之也留の附ハ  
付未也此附 留の附ハ之也  
年下也留の附ハ

源行明神領 龍溪河部  
地蔵堂ノ所

何村之内 六十石ノ年此  
先親ノ奇附之附合ハ  
可也此遠之附也

本年月 別又  
源行 此也

以支能之也百字之也  
奇附之附合 此中收納  
之附也 本年月  
本年月 此也

院号 此也  
寺号

此之文佛の科也百石  
之律人合奇附之附合  
之法收納者朝暮勒  
行未不可之悔也此  
也

本年月 名号也  
天恭和志  
永源寺方丈

此附知り百石之律人合  
附之也此附也此附也  
此附之附也此附也  
此附之附也此附也  
此附之附也此附也  
此附之附也此附也  
此附之附也此附也  
此附之附也此附也

光德寺

此寺者進百餘年今  
仍存人令新加予  
武百也令下之收  
納水

本寺月、冲津

寺号

院号

右、沙加路の村に在

為永源院常湯科何  
之因之及五回之  
之沈志未負法之  
何者先河也羽暮  
能亦之至悔志之也

本寺、名、寺、号、友

月、名、寺、号、友

志如寺

此寺又光仙院佛の  
科百もとの寺附之  
毎月之、於牌花下  
供養之也

本寺、名、寺、号、友

月、名、寺、号、友

寺号

院号

奉安置

佛舍利 一粒

右為父母菩提寺奇  
進之沈全可、之抽  
法精之師也

本寺、名、寺、号、友

月

官名

作法

納下

右と渡の位より官  
 斗と官名并しと調之  
 他とと渡ハ代  
 考由ハ如右の如し  
 会入調中法より  
 之和必之字より  
 分何部由於何村  
 何百名并しと書附  
 之流とと何人ハ  
 公情美津所由  
 何部由由何名  
 事ハ但先例と書  
 附之流と水との

右と渡の位より又兵  
 能と及由必由部  
 洋依但先例言三官  
 と書附并し全下  
 必納とやふと書  
 而し後号を看まて  
 納下中大と名之

書附詞

為

支配 合口 枝附  
知所 枝附方

又云

流外并し 中付流  
 出立流 上之枝附并し

百祀  
 一之可替水并  
 一之依如木并  
 一之依常木并  
 一之收油也

文選注 天子所居曰禁 禁蓋曰門閭 有禁非侍御使不得妄入  
 故禁ト云 禁待九舞 大内 雜法 四

君以九重 蓋九陽數極也故天子居之九重ト云  
 白虎通曰王者 父天母地故 一 又天子ト云又云德天地  
 稱帝合義稱王 帝王 元后 元首  
 陛下 官家 明王 聖帝 賢王  
 尊ヲ稱ス  
 十善 聖武 神武

大内 雲霄 青雲  
 朝家 皇家 玉室  
 禁闕 禁苑 大宅  
 禁掖 丹墀 青瑣  
 皇居 宸居 天子  
 御坐 處ヲ云 文撰注  
 天子 省闕也ト云  
 紫微宮 玉城 北闕  
 鳳閣 宮禁 太微  
 大宮 雲梯 玉階

又ハ 皇帝 皇上 皇門  
 一人 至尊 聖皇 聖上  
 今上 皇帝 金輪聖王 九五尊  
 南面 萬乘 和訓ニ 帝  
 天皇 人王 我君 八咫 知君  
 大王 外トトト 國家 皇代  
 聖武 明時 階下 是ハ 天子の  
 上ノ 御座 所 洛世を 云トテ  
 之ニ 沖御を 禁中 禁裏 闕  
 庭 胡庭 朝 宮中  
 位山 内裏 大内山 殿山 紫雲  
 雲上 百友 九章 三トトト  
 洛禁中の 更自り 昔ハ 禁中の

外中門建、更、う、地、あ、ふ、あ、  
門、こ、い、天、子、の、御、座、に、も、あ、り、と  
又、羽、定、ま、う、る、に、振、深、住、ま、り、  
皇、后、こ、と、し、ま、り、

踐祚 嗣位 受禪

天子、ツラリ、ラ、皇、子、受、禪、  
ヲ、イ、フ、祚、本、作、階、級、一、  
重、祚、再、祚、復、祚、  
天子、フ、ク、ヒ、位、ヲ、カ、セ、モ、シ、  
即位、登、位、登、極、  
ヒ、ツ、キ、コ、シ、ト、ス、ト、列、ス、

御、座、付、在、位、治、母、享、門、  
御、宇、此、五、ウ、御、位、ニ、ヒ、ト、同、ラ、  
イ、フ、御、宇、ハ、ア、マ、ヒ、ク、ヒ、ニ、ト、  
訓、ス、羽、ノ、ウ、ノ、サ、ラ、ヒ、シ、ト、  
ア、ク、皆、此、下、ニ、モ、ル、ナ、リ、  
大、掌、會、十、二、月、中、ノ、甲、ノ、日、行、  
即位、七、月、ヨ、リ、後、七、  
羽、三、年、行、ル、ナ、リ、

一 内裏、あ、を、冬、因、ト、云、所、殿、の、内、  
こ、は、あ、を、堂、ヲ、元、ト、所、殿、の、  
外、こ、は、あ、を、地、下、ニ、コ、ト、ナ、リ、  
所、殿、の、縁、と、帛、り、を、外、の、帛、殿、  
徳、井、ル、ニ、コ、ト、云、所、殿、の、内、  
と、あ、を、内、の、帛、殿、を、社、ニ、コ、ト、云、

皇基 皇基  
宸極 鳴基  
天皇 天祐 福祚  
皇綱 天業 天位  
帝位 共ニ又 聖代  
聖朝 十ト、正申ス、  
何レモ和訓ア、ウ、ヒ、キ、

退位 遜位  
讓月 俗ニクニ  
ユリト云

皇統 聖運  
聖曆  
此、三、ウ、天、子、御、代、ハ、次、第、  
サ、シ、テ、云、皇、位、ノ、正、統、ト、  
申、ス、ナ、リ、

一 受禪、あ、を、王、の、讓、を、大、子、が、  
あ、を、受、り、  
一 繼、祚、君、天、子、位、を、受、禪、あ、を、  
と、云、漢、書、の、師、古、々、注、云、繼、祚、  
謂、嗣、位、也、  
一 朕、天、子、所、云、う、を、の、あ、  
所、初、り、古、い、よ、り、た、云、々、  
初、り、を、秦、始、皇、二十、  
六、年、ニ、云、始、て、天、子、の、

勅之字漢ノ初  
帝ヲ命令  
始勅ト云レテアリ前ハ  
書ト云ヒタルニ

自稱するものなり

一 勅 勅言 勅定 編言 朋詔  
天子の御言

一 勅 同ハ 天子自ら物を御尋  
ねるなり

一 勅 答ハ 勅定物を自ら尋ね  
しるなり云々 君より御言  
るなり云々

今世スルニ  
勅答ハ  
天子ノ御答ナリ

一 勅書 天子の御書なり

勅書ハ小事ノ  
書ナリ

一 勅書 大事ノ書

宣命ハ神社山陵用ニ  
黄紙ヲ以テス伊勢ノ  
ハナク紙如茂ハ  
紅紙ニ内記書ナリ

一 勅 策おとす 之 法の字か

一 勅 願とす 震策の願を云

なり 勅 願おとす たり

一 勅 形とす 天子御名刺の

形とす 然るして 皇極の言

下あり 皇を 祝換トス

一 勅 宣 勅令 輪令 詔令

何れも 天子の御言

一 勅 圖 奏とす あり あり

あり あり 振持テ あり

振 奏とす

一 勅 撰 詩歌を御尋み

一 勅 許 天子の御言

官位の度とす 勅 免とす

免とす

一 勅 任トハ 天子の御言

官 任とす あり

一 勅 使 王ノ御言

勅 印とす 之ハ 御言

精 印とす

一 勅 方 御言の 葉とす

か あり



敬慮 一自天  
恩 街思 御機  
早記 冲襟

一 敬慮 王の冲心有り

一 敬威 冲威有り

一 敬聞 物聞あり

一 敬見 物見あり

一 敬襟 震襟 王の好思あり

天子の御心を治るあり

震の度顔小 天子の居こと

て中さねを有り

一 敬覧 物と背を有り

一 進奏 物と背を有り

一 玉躰 冲心あり

一 震儀 冲心あり

一 天氣 冲心を有り

一 龍顔 天子の御容あり

天顔 玉顔  
漢書 高祖 如温息  
大次 敬夢 典神 過受  
雷電 晦冥 炎火 公往  
見 文龍 上見 巴而 古 娠 産 高 祖 則 龍 顔

前漢書 高祖 高祖 隆年 龍顔 須髯 髯 一

一 逆鱗 天子の怒を云

天子と龍比し有り

竜の喉の下、鱗あり

龍ハ云有り

一 天恩 冲恩有り

一 天益 天子の治を云

裁の法別の去案、公智て漏

をうつて 冲恩を情申して

退かざるを云

一 天酌 天子の御心あり

治るあり

院より御親王あり 副位より

一 御心あり 御心を有り

一 御心あり 御心を有り

一 御心あり 御心を有り

皇恩 敬慮 恩  
皇沢 氏 義 全

- 天子殿前（酒もさう）所通
- 一 冲劔 雄劔 冲常刀 何と
- 天子の所太刀
- 一 冲衣 兵服 王の所是也
- 一 官本 天子の 冲書物
- 一 皇居 玉座 天子の冲座を
- 之のりたる居る小居をさして
- 皇居と云ふ
- 一 公安 冲寄の舎なり
- 一 宴飲 冲泊宴なり
- 一 冲遊 宴了りの冲遊
- 一 冲硯案 天子の所硯之傍に
- る也
- 一 出所 入所 冲殿の由を出入
- 所と云ふ
- 一 勅勅とい 違勅の人

ハカチ 冲中ニ全シ  
 鹵簿 ミニト別ス  
 勻會ニ鹵ハ大揃  
 簿ハ夫ノ室ニ外ニ有ラ  
 用元ハ武備ニ内ニ用ハ  
 武備ニトワキウ非常クイ  
 ミテ事ノノナハ全キニムル  
 ハシ

毎年 春ト秋アリシ  
 周禮 春日朝ト秋日親ス  
 トアリ  
 仙蹕 上幸ト云フ  
 ミニト別ス  
 潜幸 天子又院御所  
 又ニテ出所云

蒙壁 天子ノ  
 出奔云

- 一 冲洞衣 天子の所是なり
- 和川 托の具と云
- 一 冲幸とい 天子所はるるの是
- 遠心の冲幸はるるの行幸
- あり行てふといはると云
- 天子の所はるるを
- 於ト侍らるる御と云
- 還幸と云ふなり 仙洞（行幸を
- 朝觀の行幸ト云
- 一 臨幸 迁幸 潜幸 何と云の
- 仍幸と云ふは 天子の
- 御事と云ふは 天子の
- と云ふは 天子の
- 又一説、新殿（冲
- 極殿）とも云ふ
- 行宮 天子の行幸す所也

御太子多ク養育  
食事ハ食ノ一  
礼記御食ヲ君ナラ  
文撰モ御食ノ下ニ

川のほとりに四つ八つあり在

所共々あり

供申太子の御食一説に日

位氏之申ハ何事あり

一 輪者皇命 口宣 官旨

何れも太子の命を文として  
たつを云あり

一 公事 所門より何事あり

ふら食ふを云事と云く

公事とわ別と

一 朝政 太子毎日太子北極

を念ふ事あり

一 御調物 太子へ法皇より御

物あり

一 所割り 太子の御所

一 官幣使 奉幣使法法幣

帛を御太子勅使一説小  
例幣使トモ定めて法のを云

一 官軍 太子の御所と云通

法皇使ハ二云官指稱太子

也仍云不放言太子亦稱曰官

一 空頂 黒憤 寂花 何と

太子の御所

一 香極潔 所禁糸の袍

一 鞠塵絶 右回俗 山埴色

一 錦錦綾 表袴 二壺 所中帝

櫛も袋 何と太子の御所

一 所路 南階 中殿 長階

何と又殿の懸名を云

一 禁門 禁中ノ門

一 南面 紫宸殿之南面

付殿と云事未詳

常ノ御殿ト云テ天子常ニ居  
 五ノ殿ナリ公方家ノ御礼モ  
 此殿ナリ畫御坐ヲ御座ニ云  
 夜御殿 御座所  
 昔大極殿ニテ  
 形如輿ハ方ニ鏡ヲ  
 カケル合ニ五面ナリ頂  
 上ニ鳳像ナリ女官長柄  
 團ヲ以テ是ヲ蔽群臣殿  
 前ノ地上ニ立テ拜ス  
 紫宸殿ノ側  
 月花門ニ並テ有  
 玉坐 天子ノスヘテ  
 御坐ヲ云

也、室上の殿とス天子と南面至  
 座中と云々 朕南面位治  
 天下の事を親と云々人々  
 後醍醐天皇の勅定なりと奉化  
 に見ユ礼記曰君々南面と云  
 答陽之殿之長北南と云  
 君々也や  
 一 中御殿 天子の御座紫宸殿  
 わり御座あり 祇園御座之  
 陣屋 節令のとき 常官公卿  
 御座あり  
 畫御座ヒノヲミト和州也  
 天子着御ノ所也なり  
 一 夜御殿 中夜御殿  
 一 朝御殿 天子御座あり  
 高麗也 臨御せり云々也

一 沙汰言付ハ清涼殿の更へ  
 中御殿も常の沙汰言付なり  
 一 和ハ 仁壽殿 兼香殿  
 一 沙汰言付ハ清涼殿  
 一 舎此知ハ上獨女女の居し  
 妙なり昭陽舎淑量舎かよの  
 於之利量相志あり云々も  
 付舎の更へ  
 一 沙園生 天子の園なり  
 一 離宮 天子の御座の定處  
 水竹園の里の城南より羽院  
 の離宮也  
 一 御宇 天子の御治世ノ所統  
 治之曰御宇と云御宇ノ御と

宇 秋名宇羽如鳥羽翼  
白覆蔽ナリ

ウノ之字ハ秋名羽之字の合の  
ろつろつ如く如き又天地の  
を統御するものなり

五十六代清和惟仁  
七十一代後冷泉  
親仁

御津 天子の御宮名云々天子  
の津ハ何れに下れの字を附せし  
津取方ありし一ノ宮名ト  
名メ字トつと冷泉女官の子の  
宗と附りしより七十三代  
堀河迄は名之遠は冷泉津  
法は御津を惟仁又女官の子  
字をつとめしより十代  
仁明之字の皇女正子内親王  
ノヤ妻ハ津訓抄云々あり  
一 風輦 天子の御輿之令を以テ  
風輦と作て輦のたに重なり  
漢之の注に智人ハ行を輦

龍馭 左馬寮  
了のてらふてつる名

こころの中宮と云ふより乃云  
上に詔ありし津輿風輦ト  
トヤをりしを此津輿ト  
云々天子の御輿あり 津輿  
輦格 王格 龍馭 竜車  
天子をせりし沙東より手車ハ  
親王宮の召あり  
龍蹄 竜馬 寮所馬 何れ  
天子の御宮を云々  
一 御腦 天子の御腹之  
一 山崩所 天子の御カクシハス支  
山岳 山崩ルニ比ス 和訓カニサリ  
まじりしより又皇駕ト云  
一 源胤 天子の御忌中云々 諒  
陰モ 諒ハまこと 園ハくしし  
たしと云々天子の御所あり

天子ヲ後ト讀ハ  
後奈良  
後深草、限ナリ

天下寧んばの故なり

一 冲国忌 山崩沖の目を云

一 冲陵 天子の冲墓也

一 荷前使 天子の冲前へ今上  
より勅使を遣はりて

一 後一条院 後一条院の事を云  
此の天子崩御ありて呼  
ばる時、前々天子の冲行  
状を御覧と云ふを云て後  
字を有くと云ふと云ハ一  
院と云ふを後一条院と云  
又皇下の云々も阿れたを  
の更之は阿れ後と云ふた  
後の御恩寺おと云ふは後  
かとうの御恩寺の御恩寺  
多ハ故に納まかとも呼ば  
る

後京極

又白公卿ノ徳を大形ハ  
左大臣大納言三位  
中將春宮大夫侍從ホシム

侍

元と遷り元のたれり

一 上達部 大臣の子貝を云

一 同卿 二位の位を云

一 雲雲 旧位を云

一 官領 殿上人の位を云

一 行幸 官位の 遷官の道也

一 御座 御座を云

一 法兄 御座を云

一 位丁 官の御座を云

一 納言 沖海人の

一 両房 大弁記官務を云

一 院 院の天子冲位を遣はりて

外記ノ中ニテ  
官務及大臣左右并官ラ  
兼ルヲ云  
仙洞仙院 蟠洞  
上皇ノ居所  
姑射山 家ノ洞  
下居宮  
ナリナリ

院ニテ天子冲位を遣はりて

先帝先皇ハ前御以迄  
申ス  
法皇ヲ禪ニ法皇ト云  
法諱ト云  
着飾 着飾  
ミカサリヲジロスト訓ス  
天子ノ父タルコトヲ皇ト  
子ノ政務ニ不預ニハ  
帝ト云フ

院 幸 氏 卿 氏 氏

太上帝院先帝と云ふ皇氏申  
 寺。中飾をとりて久し  
 といふ所を院中不  
 仙洞仙院と云ふ寺あり  
 仙人の洞なる寺あり  
 仙郷ハ万徳成りて春杖  
 良石不葉ありて春杖  
 姑射山と云ふ寺あり  
 おりて今時今尚今位を  
 のりて今時今尚今位を  
 院をいふ院と云ふ  
 一院ハ今と院と云ふ院ハ  
 中と云ふ院を院と云ふ  
 院の法を宗文に認るを  
 院と云ふ所を院と云ふ  
 云院の也ハ法と云ふ院

一院の法と云ふ元日に  
 冬候て院を抄りて  
 小胡清と云ふ正月二日  
 白席しと云ふ寺あり  
 一院法新の法院号ハ  
 亭子院ト云ふ寺あり  
 一院ハ法と云ふ院あり  
 院号 讀 ヲク

亭子院 冷泉院  
 花山院 朱崔院  
 迎清院 源草院  
 光嚴院 陽成院

一北面と云ふ院の付く上  
 北面と云ふ院の界  
 北面と云ふ院の界

正みて清之なる一宮に任して  
東宮をせむ北下の北面あり  
後鳥羽院の御宇に院の西面を  
十人ありて世に例うべし

春宮 東宮

竹園 皇太子 儲君 儲王  
元子 太子 東宮 純録君  
皆當今 後即位アルキ  
外ノ皇太子ヲ云 御居  
所ヲ東宮坊ト云

龍樓 又鶴林 又銀榜  
又青園 東后 諸親

梁園 天枝 帝業ト云  
宮方ノ異名

即位アルキ太子宮系  
カキ 號 祚ナキニ太子ト云  
ト云

宮儲君ニ親王ト云モ  
ナク 每位皇官ノ王子ヲ云フ  
ニ宮ニ宮ト云 姫ヲ云フ  
ナニノ宮ト云

傳字士是リ東宮ノ官ト云  
大夫以下ヲ防官ト云  
古未如此

春宮といふ皇太子の中 小清世を  
能りたるを之と和訓ミコトニヤ  
ト訓と太子儲君春園とも  
春宮昭陽と云ふ東宮の  
后殿の皇太子を控てミコト御所  
を坊と云ふ 東宮の御所  
御所と云ふ坊と云ふ御所を  
坊と云ふ之令義解ミコト云ハ  
謂太子御居之未御知君の御所  
中に清世の御所と云ふ 左侍  
隠ミニ年正清云に時ハ東

春宮の御所は東宮西宮

秋ノ百の御所は南宮ト云

君ハ在西宮ニ太子処東宮也

游君徐光云太子副君故謂

之儲也王文憲集序注之儲謂

太子和訓ハ儲君日讀君カ

ト云ハス儲君の宮ト云を太子

子宮ト云 立坊ト云ト云坊ト

云ハ春宮坊を稱述ミコト云

若坊ト云ト云系カト云ト云

坊の内 早世カト云ト云坊ト

ト云ス文彦太子カト云ト云

の御所 御所を令言ト云ト云

のト云ト云 文選ニハ八汪 秦

の法 白皇后太子の命を稱令

周文王世子ト云太子ト云  
稱日本神武帝御太子  
号アリ日帝四年ニ皇太子ト号ス

通鑑綱目廿八 太子ノ命



御身牀ヲ東宮ト云御居ラ  
春宮ト云フ  
侍宸 提ラ皇太子ノ居テ

謂之令と云く東宮は侍  
官人を坊官凡と云東宮の侍出  
を行啓と云親王官との侍出を  
源河と云侍見介を侍出枝と云  
侍出を還沖と云侍相を侍家  
と云宮く后方も同く死をハ  
亮沖と云と云

親王 并官

昔ハ皇子ト云天武天皇  
二年ノ紀始テ親王ト書テ  
花鳥餘情。曰一品  
四品ニテ百品ト云五品ニ  
當ル有ラ五品ト云五品ト云  
重體。此親王宣下ト云  
皇子ト云五品ト云位ト云カ如  
天子ト云ナカラニ位ニ  
親王宣下ナキヲ五品ト云  
氏イハリ  
法親王ノ始ハ康和二年  
仁和寺ノ覺汗ノ出家  
後親王トナル  
係ノ天皇ノ皇子也白王子  
出家ノ始ハ白王子ト云  
スルハ枝葉ト云廣カラセ  
テミキト云ナリ

親王 天子の侍出之字のハ親ハ  
のハ侍出の用意ハ白王子の中を撰  
て親王の官名を名くと云  
和州親王ト云ト云親王宣下ト云  
侍出の侍出の官名を名くと云  
法王<sup>氏</sup>官<sup>氏</sup>ト云ト云官ハ白王子の通号

行啓 東宮 后宮  
女院ノ出行ヲ云カヘラ  
還御ト云  
渡御 中宮 親王  
將軍ノ出行ヲ云カヘラ  
入御ト云  
亮御 他界 遠行  
東宮 親王 公方  
述去シテ

天子の侍出叔又侍又方唐子の  
白王子宣下向きの親王ト云ト云  
后殿の親王ハ白王子叙ト云  
侍出に昇をト云白自  
奈ハ白自より昇をト云  
人言の如く正從のト云  
累より一正ト云昇がト云白自  
ト云又所ト云白自をト云白自  
官ハ源正の尹中將卿

當時親王家ハ

伏見殿

九十八代 崇徳院白王子榮仁  
始ト云

八條殿

百代 後陽成院御建枝一品式部  
卿智仁始ト云

高松殿

後陽成院白王子寧仁始ト云

有栞殿

後西院ノ白王子幸仁始ト云

此四家ノ親王ハ石川文忠ノ記ニ見ヘタリ  
當時ノ親王家ハ上ニシラス

伏見殿  
兩院殿  
有栞殿  
京極殿  
右當親王家也

内親王天子ノ姉妹嬢ヲ  
宣下アリテ宣下ナキヲ  
皇女ト云  
女六二世以下四世以上ヲ云  
五世ノヨリハ命婦官人ノ  
列ニ入ルナリ  
王子又連子御孫ナリ親王  
宣下ナキヲ未々姓ヲモ賜ラセザル  
格又皇ヲ王氏皇孫ト云大抵  
三世迄ナリ皆姓氏ヲ云フ  
高見王ハ孫王ナトノ如シ

或は皇孫の如くは任し天子の  
常侍大夫に任しりて親門小  
入りの法親王と云ふは皇孫を  
皇孫の如くは任し一世の親王二世の  
親王と云ふは一妻の宮有ハ  
皇孫一代ナキハ安任親王と云  
二世の親王ハ二代の親王に如し  
皇孫皇女を公主ト云帝王の妹  
皇孫皇女と親王に如しハ皇子  
由親王の子ハ人臣に如してハ皇  
孫皇女ハ一ノ宮と云天子の  
孫ハ皇孫と云又ハ皇孫法王ト云  
官ハ一ノ宮と云ハ皇孫皇女ハ  
女ハ一ノ宮と云ハ皇孫皇女  
人臣の如くは任し天子の

女位を昇りりハ天子の如くハ  
皇孫皇女ハ親王の如しハ  
天武帝の母は唐ノ隨ノ代ハ  
好皇孫の如し親王の唐名ハ  
和名ハ一ノ親王を天王と云竹  
園ハ二ノ深園を三ノ天枝を四ノ  
帝業を五ノ親王にあてり  
中ノハ記原と云ハ九ノ竹園  
と云ハ親王の如しハ天子の漢の  
文帝の太子孝王大なるハ  
竹の園をもちけりハ天子  
皇孫の如くは任し一世の親王  
皇孫皇女ハ一ノ宮と云ハ  
天子の如くは任し一世の親王  
皇孫皇女ハ一ノ宮と云ハ

綏清帝元年ニ  
 皇后ヲ尊テ皇太后トス  
 一 条院御宇梅壺ノ皇太后  
 太后詮子若飾有テ  
 東三条院ト号ス是女院  
 申ス始ナリ  
 門号ハ後一条院母后  
 上東門院御子起リ  
 中宮ニ天子ノ御妻ノ一  
 光仁帝ノ后初テ置之

皇子人臣降リ 聖法信の御  
 如多ハ公吏に法ヒリありあり  
 有威を有テ之の長治あり  
 姓を有テ 王法に代ハルハ  
 是と母の位を以テ之位ニ  
 法ヒリ之を以テ 叙任あり  
 或ハ材ニ法後天唐の法後法  
 の所ニ法 爵を以テ之を有リ  
 是と天子の爵を以テ之を有リ  
 稱して正躬王を以テ之を有リ  
 一 國母天子の御也又ハ女院皇太后  
 后宮ナルト云フ也 法母を以テ  
 院を以テ之を有リ之を有リ  
 之治大内ノ門号を以テ之を  
 有リ女院と云フ之を有リ之を  
 稱シ之ハ其の唐名を國母仙院

女院ハ中宮ノ隱居  
 天子ノ母中宮ノ位居ルトキ  
 門号ナリ侍賢門院トス  
 中宮ノ位非ナルハ京極殿  
 云門号ナリ  
 國母天子ノ母ニ昔女院曰  
 母ノ名ナリ皇太后トス  
 出宗源院ノ母ヲ並テ  
 侍賢門院ト号ス  
 女院后宮ヲ下リ若飾  
 後ヲ云門号ヲ送セラル

堯母門帝親母以握也亦宮外  
 ころラス連を姓比シ之を有リ  
 あり周ノ文王ノ母后大姫ト云フ  
 王ノ母后大姫ト云フ矣 始ナリ  
 皇太后宮ト云テ才ホキサリニヤ  
 と相別セリ付テ之を以テ之を有リ  
 文徳帝ノ所宇に始ナリ之を  
 中宮ノ位を以テ之を有リ之を有リ  
 之を有リ之を有リ

又或ハ此之  
 皇后地ヲ御ホリ  
 居所ヲ後宮椒房  
 掖庭蘭殿金屋  
 御所トス

太皇太后宮ハ天子ノ御親母を  
 以テ相別レ之を以テ之を有リ  
 名皇祖妣太皇太后 太皇太后  
 外ト云フニ太皇太后ニ字ハ秦ノ始  
 皇ノ母后を柯太皇太后ト云フ小  
 始々太后ノ母ハ秦ノ昭王ノ母后  
 を皇太后ト云フ是ハ始々后ノ字

八雲抄三后ノ一ツリ  
紫ノ雲トイヘリ  
又誘三皇太子ヲ春ノ  
宮ト云皇太后宮ヲ秋ノ  
宮ト云

夏ノ代を令母の君と云云云  
の字と母の本朝十六代神功  
皇后始の神母方と云云云  
江のとつとつ母方の御記は  
神和威とつとつ

皇后唐和訓キサイノミヤ神門  
の神妻之后宮<sub>氏</sub>后妃<sub>氏</sub>中宮とも  
中と作昔<sub>氏</sub>ニ宮を初て中宮云  
つり<sub>氏</sub>下朝の始の母を中宮と  
云<sub>氏</sub>唐古小<sub>氏</sub>后也中宮と云  
今其異域の例とつり<sub>氏</sub>延喜帝の  
神中宮の始つて<sub>氏</sub>由<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>を  
中入<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>中宮を始<sub>氏</sub>中  
の房を<sub>氏</sub>神皇<sub>氏</sub>とも對の房<sub>氏</sub>モ  
云<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>神<sub>氏</sub>殿<sub>氏</sub>た<sub>氏</sub>房<sub>氏</sub>を<sub>氏</sub>  
を<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>房<sub>氏</sub>とも<sub>氏</sub>后<sub>氏</sub>小<sub>氏</sub>を<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>

中の内

禮巴ニ天子ノ也曰后  
諸候ヲ夫々大夫ヲ  
孺人ト云婦人庶人ヲ  
妻ト云

三公ノ内ヨリ天子ノ妻ト  
進<sub>氏</sub>テ入内<sub>氏</sub>ヲ始<sub>氏</sub>  
女御ト云其後サキニ  
中后ト云  
女御代ハ女御<sub>氏</sub>女御<sub>氏</sub>ハ  
必殿<sub>氏</sub>ヲ作リテヒコク故ニ  
女御代<sub>氏</sub>ヲ以テカリトス

源氏物語に相垂ノ  
更衣ハ大納言ノ娘ニ  
崩粧<sub>氏</sub>施粧<sub>氏</sub>莞御  
ニッハ白皇后女院ノ死ヲ云

天子を<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>后<sub>氏</sub>と云<sub>氏</sub>  
つとつ<sub>氏</sub>也<sub>氏</sub>礼<sub>氏</sub>記<sub>氏</sub>天子<sub>氏</sub>の<sub>氏</sub>也<sub>氏</sub>  
曰后<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>女<sub>氏</sub>御<sub>氏</sub>文<sub>氏</sub>衣<sub>氏</sub>神<sub>氏</sub>体  
而<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>  
女<sub>氏</sub>御<sub>氏</sub>漢<sub>氏</sub>朝<sub>氏</sub>六<sub>氏</sub>八<sub>氏</sub>十一<sub>氏</sub>の<sub>氏</sub>女<sub>氏</sub>御<sub>氏</sub>アリ  
周<sub>氏</sub>礼<sub>氏</sub>記<sub>氏</sub>天子<sub>氏</sub>の<sub>氏</sub>御<sub>氏</sub>始<sub>氏</sub>  
つり<sub>氏</sub>女<sub>氏</sub>御<sub>氏</sub>の<sub>氏</sub>二<sub>氏</sub>位<sub>氏</sub>一<sub>氏</sub>位<sub>氏</sub>小<sub>氏</sub>の<sub>氏</sub>后<sub>氏</sub>  
の<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>常<sub>氏</sub>に<sub>氏</sub>上<sub>氏</sub>立<sub>氏</sub>賜<sub>氏</sub>の<sub>氏</sub>御<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>  
の<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>  
文<sub>氏</sub>衣<sub>氏</sub>河<sub>氏</sub>海<sub>氏</sub>御<sub>氏</sub>に<sub>氏</sub>明<sub>氏</sub>玉<sub>氏</sub>皇<sub>氏</sub>  
乃<sub>氏</sub>文<sub>氏</sub>衣<sub>氏</sub>是<sub>氏</sub>御<sub>氏</sub>之<sub>氏</sub>漢<sub>氏</sub>小<sub>氏</sub>を  
皇<sub>氏</sub>帝<sub>氏</sub>の<sub>氏</sub>時<sub>氏</sub>始<sub>氏</sub>之<sub>氏</sub>使<sub>氏</sub>殿<sub>氏</sub>は<sub>氏</sub>侍  
つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>  
文<sub>氏</sub>衣<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>女<sub>氏</sub>御<sub>氏</sub>つり<sub>氏</sub>少<sub>氏</sub>之<sub>氏</sub>目<sub>氏</sub>矣<sub>氏</sub>

御息所源氏物語  
六條ノ御一ノ相違  
ミナトノ御一ノ東宮  
立ノ時ノ事

皇女 帝女 公主  
天子ノ姫云親王立  
下ノ後内親王下申ス

天皇に即位の給女の御名あり  
一 清体別所子を産まうして  
何と付あり天子の御体不  
あつたの故之又い天子け人の  
病と御体名の御名より一院に  
東宮宮親王の妻を御息所と  
流とも大寺記にも一宮の御名不  
ゆきとも多々東の御方南の御  
方ありと申すこと  
一 長公主 帝の御所へ云大長公主  
一 長主 御所へ  
一 大公主 御所へ  
一 勾當内侍は長後房と云  
由侍中と云一 獨を白事  
由侍中と云 若して由侍と  
はくハ中臈を云と云

執事

ハトリト訓  
朝賀ハ臈ヲ妻ト房ヲ云  
昔ハ氏別ニ一人ヲ  
首ニシテ女孺ニ孺婦ニ  
先例親王及拱闈  
妻ヲ云  
拱闈家ノ改ラト呼フ政所ト云  
妻ト家内女中ノ統領ニ故ニ  
北政所ト云北妻ト云

とけとけハ房を云と云大寺  
とハ一房を云と云女孺代ハ石  
位之親はと云ハ中居のハ有り  
一 女孺の一任二任三任と云ハ中  
妻位ハハ有ハ女孺の文成  
のハ又ハ女孺を有ハ有り  
一 ひと子天子の御所と云ハ  
カ十イトモ御所水のハ有り  
一 女孺大寺と云ハ有り  
北政所関白の妻を云と云ハ宮  
賢子成のハ政所と云ハ  
一 小政不掣取のハ  
一 大政不掣取のハ  
一 御所不掣取のハ  
一 御所不掣取のハ

皇盤下ハ公員枕ヲ載ル  
堂ノナリ

辞表氏云  
致仕官ヲ辞シテ  
位元ノ如シ位ヲ止ラズ  
罪アリ取リテ  
乞體骨ト有モ一ト云

一 再仕とい官白ふを辞して又仕仕之  
一 辞位を辞し恩がらして又仕仕之  
致仕とい官の位を止らざるを感  
君に上りて又之辞して仕仕す  
の如く致仕表と申して之を辞す  
依を文章と云て持りこれ  
を之表と云之曲礼云又ハ  
七十にて致事ス致共嘗也事  
於君而告竟其職事を志  
に上りて致仕大臣を左大臣  
良世寛平八年十二月廿九日  
上表致仕七十四テ大政  
大臣を藤実頼安に二年  
正月八日上表致仕  
七十

らりて牛車聲のきわり  
より官中を出入と牛車ハ  
中門のきりきりし  
輪カケテ女はし川有り  
津門の内をとまよりの宿を  
の大臣又ハ女所文をよめ依病退  
出の内聲のききをよめ  
一 昇進と云官位を言ふ  
又位昇進を言ふ如級一級か  
と云同位位昇進  
一 官を仕仕と云位を叙と云  
一 新階直仕ト云位を叙と云  
女位を叙して仕仕を言ふ  
一 持任持位と云小より大ハ昇り  
持り正にもつを言ふ大臣ハ  
一 推任推叙と云王ヨリ列して

中令氏、推挙ありて、女臣  
にのりせしむるなり

一 勅任の官とて、在勅官に任じ  
と勅任とて、太政大臣の御奉  
女に任じたるを奉任とて、法  
詮擬して太政大臣の官に任  
じ判任とて

一 考叙とて、依奉る官に任  
被るなり

一 叙官とは、御の女をこころし  
列の女に任じらる付始の女を  
女に任じたるをこころし、こころ  
多しわつたなり、女臣少被任  
叙とて、御少被任の叙

一 執事とは、御事あり、御事  
御事任を御事とて、御事

車任車叙事遠なり

一 攝政の幼主女帝の時、けり有  
関白の天子十五以後あり

一 関白の任居を大臣とて、法  
律制とて

一 市子とて、攝政なり

一 公卿とて、大臣より、三任以上を公  
とて、大臣納言、参議と卿とて

一 公を攝政、法亮、大臣、大納言  
息言とて

一 花族とて、攝政法亮の二族とて  
あり、よして、花族の族

一 現任の公卿とて、尚書に居  
る、公卿とて

一 殿、大臣、納言、公、とて、官白  
の法あり

侍任之者姓内上源氏人源内平内内舍人  
中務ノ流外ニ在リ人右  
未元服殿上ノ簡ツク  
内舍人ト云

- 一 初尉公方初て冠をさくら  
るる元後と申ししこ
- 一 津智とい友に信くられは後  
天子は深スきと津智と云
- 一 小舎人とい童の若名之中少ね  
の石具しつる云々
- 一 内舍人とい信し津智を勤よめ
- 一 舎人とい牛馬を方とめ
- 一 略勅とい宮中大舎人の侍りこ
- 一 新色とい花中の津智を勤よめ
- 一 凡人とい梅宮の子孫承を云々
- 一 生る達とい春庭のあこ
- 一 公王の末流を云
- 一 有威とい能古美を云々
- 一 方の子の初ふるなり

内弁ト云明門ノ内ニ  
事ラ弁ト勤ル臣ノ  
大臣ト云外弁ト云  
外ニテ勤ル大臣ト云

- 一 上卿とい事を行ひの府  
々々の中く一人出仕わつて  
らふを津智にきり云々
- 一 内弁ト云弁女ナリ
- 一 内弁ト云内人内を云々
- 一 弁くし中務を云々と内中  
と云
- 一 任槐とい大臣の御方云々
- 一 禁中にお板安と云知あり
- 一 殿上布の板安を云山板安  
わら及夫日給簡原板安  
おとく殿上人の名を云々
- 一 なる簡原を日給の簡と云
- 一 内
- 一 内直宿人禁中の御方を  
勤ゆる人なり



一 左遷の福公は元流罪のもの  
より配流の人の百久に及ぶ

通鑑集覽曰若候主衣大官  
之律章略以爲古猶下也  
澤法地道ハ右尊故謂賤之  
族焉大廷拾天子仕諸侯  
爲大官漢魏以上ハ  
貴右卑左古罪者解高官  
降下官曰シラ左廷

六層の後出の位叙ス  
らるる

玉辰 天子御坐後立屏凡也 鳳皇 天子御坐シ

省紙 薄墨色紙 紙屋川テ漉クニニカウヤカミト云

水盤 結加ヒニテ天子地衣ヲ羅セ玉後給湯有テ控平ノ吹ラ云  
疑似俗ニ序病報痘吐瀉起脹水腫貫膿木膿

倚廬 天子喪手在マ間之御所ヲ云

殿上ノ清涼殿ノ南ニ殿有之ヲ殿上ト云此殿上人ヲ一人ト云今ハ清涼殿西ニ相並テ古  
地下ノ此殿昇ルナラス  
紫宸殿ハ御政ヲ行ハ殿ノ南殿ト云  
常御殿常ノ震居ノ坐方家御礼モ一トツ

御坐 畫御坐  
夜御殿 御寝所  
是之

叙位ハ橘氏爵事ヲ掌ル人ヲ云橘家微ト成テ寛和頃関白  
道隆大納言リト叙 宣旨ヲ蒙テ以テ未棋家ノ職トナリ

草露傳 五

一人會ハ十二代 治承天皇御  
出立ニ時 藤原大長等 治承  
又花山院 沙加家志ハ是レ  
起テ山門 治承ノ御所ナリ

一 坊友ト云半 宇多天皇

官年ノ中ニ御出立ノ別室ヲ設ケ  
トテ今ノ御所ニ御居テ  
仁和寺中御造立ニ依テ則  
仁和寺ニ御坐シ沙加家志  
御所付ノ官人侍トシテ  
弟友ト云ト宣旨ニ之レを宣旨  
名トシテ妻子ト云人ハ妻帯  
ト云ト妻子ト云ハ治承ト云  
ト云ハ花山院ト云ト叙判テ

- 修驗不<sub>レ</sub>うれば大納言修驗を  
 以下若成<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>んれば成<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>法  
 下成<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>法<sub>二</sub>昭<sub>一</sub>と云<sub>レ</sub>伊<sub>一</sub>藤<sub>二</sub>宣<sub>一</sub>の  
 伊藤法昭と云<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>こと<sub>一</sub>も<sub>二</sub>花  
 友<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>下<sub>一</sub>重<sub>一</sub>後<sub>一</sub>友<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>下<sub>一</sub>重<sub>一</sub>の  
 相<sub>一</sub>不<sub>一</sub>坊<sub>一</sub>友<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>こと<sub>一</sub>又  
 一<sub>レ</sub>相<sub>一</sub>不<sub>一</sub>坊<sub>一</sub>友<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>こと<sub>一</sub>又  
 亦<sub>一</sub>足<sub>一</sub>附<sub>一</sub>の<sub>一</sub>友<sub>一</sub>人<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>坊<sub>一</sub>友<sub>一</sub>と  
 云<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>こと<sub>一</sub>も<sub>二</sub>此<sub>一</sub>れ<sub>一</sub>の<sub>一</sub>親<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>文<sub>一</sub>能<sub>一</sub>と  
 云<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>こと<sub>一</sub>も  
 一<sub>レ</sub>此<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>は<sub>一</sub>門<sub>一</sub>の<sub>一</sub>不<sub>一</sub>法<sub>一</sub>身<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>  
 法<sub>一</sub>修<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>こと<sub>一</sub>も<sub>二</sub>相<sub>一</sub>不<sub>一</sub>坊<sub>一</sub>友<sub>一</sub>  
 と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>こと<sub>一</sub>も  
 一<sub>レ</sub>坊<sub>一</sub>友<sub>一</sub>の<sub>一</sub>門<sub>一</sub>の<sub>一</sub>不<sub>一</sub>法<sub>一</sub>身<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>  
 相<sub>一</sub>不<sub>一</sub>坊<sub>一</sub>友<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>こと<sub>一</sub>も  
 八<sub>一</sub>陣<sub>一</sub>の<sub>一</sub>不<sub>一</sub>法<sub>一</sub>身<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>  
 一<sub>レ</sub>假<sub>一</sub>人<sub>一</sub>の<sub>一</sub>不<sub>一</sub>法<sub>一</sub>身<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>  
 此<sub>一</sub>の<sub>一</sub>假<sub>一</sub>人<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>

- 一<sub>レ</sub>傳<sub>ニ</sub>法<sub>ニ</sub>師<sub>ニ</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>こと<sub>一</sub>も<sub>二</sub>此<sub>一</sub>の<sub>一</sub>傳<sub>一</sub>  
 傳<sub>一</sub>之<sub>一</sub>法<sub>一</sub>師<sub>一</sub>の<sub>一</sub>日<sub>一</sub>有<sub>一</sub>之<sub>一</sub>又<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>  
 法<sub>一</sub>勤<sub>一</sub>より<sub>レ</sub>傳<sub>一</sub>法<sub>一</sub>師<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>  
 無<sub>一</sub>事<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>  
 一<sub>レ</sub>坊<sub>一</sub>友<sub>一</sub>の<sub>一</sub>法<sub>一</sub>下<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>法<sub>一</sub>橋<sub>一</sub>の<sub>一</sub>  
 唯<sub>一</sub>地<sub>一</sub>下<sub>一</sub>位<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>  
 一<sub>レ</sub>傳<sub>一</sub>法<sub>一</sub>師<sub>一</sub>の<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>法<sub>一</sub>橋<sub>一</sub>の<sub>一</sub>非<sub>一</sub>地<sub>一</sub>  
 下<sub>一</sub>位<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>  
 一<sub>レ</sub>仁和<sub>一</sub>寺<sub>一</sub>の<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>法<sub>一</sub>橋<sub>一</sub>の<sub>一</sub>非<sub>一</sub>地<sub>一</sub>  
 但<sub>一</sub>光<sub>一</sub>明<sub>一</sub>峯<sub>一</sub>の<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>法<sub>一</sub>橋<sub>一</sub>の<sub>一</sub>非<sub>一</sub>地<sub>一</sub>  
 号<sub>一</sub>圓<sub>一</sub>白<sub>一</sub>水<sub>一</sub>后<sub>一</sub>の<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>法<sub>一</sub>橋<sub>一</sub>の<sub>一</sub>非<sub>一</sub>地<sub>一</sub>  
 康<sub>一</sub>苑<sub>一</sub>院<sub>一</sub>の<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>法<sub>一</sub>橋<sub>一</sub>の<sub>一</sub>非<sub>一</sub>地<sub>一</sub>  
 付<sub>一</sub>布<sub>一</sub>王<sub>一</sub>孫<sub>一</sub>の<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>法<sub>一</sub>橋<sub>一</sub>の<sub>一</sub>非<sub>一</sub>地<sub>一</sub>  
 一<sub>レ</sub>院<sub>一</sub>号<sub>一</sub>の<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>法<sub>一</sub>橋<sub>一</sub>の<sub>一</sub>非<sub>一</sub>地<sub>一</sub>  
 一<sub>レ</sub>院<sub>一</sub>号<sub>一</sub>の<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>法<sub>一</sub>橋<sub>一</sub>の<sub>一</sub>非<sub>一</sub>地<sub>一</sub>  
 一<sub>レ</sub>院<sub>一</sub>号<sub>一</sub>の<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>法<sub>一</sub>橋<sub>一</sub>の<sub>一</sub>非<sub>一</sub>地<sub>一</sub>  
 一<sub>レ</sub>院<sub>一</sub>号<sub>一</sub>の<sub>一</sub>法<sub>一</sub>昭<sub>一</sub>法<sub>一</sub>橋<sub>一</sub>の<sub>一</sub>非<sub>一</sub>地<sub>一</sub>



是は下位に法家の位を  
位之を擧げし

一 参議小正にして二位を  
勲位とも放二位とも之に  
下の考とも二位小叙を  
之とす

一 大中納言ハ古も侍友あり  
納言ハ侍友あり 黄納言  
法納言ハ侍友あり 海陸ハ侍友あり  
新中納言ハ侍友あり

一 教位ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり  
位一位ハ侍友あり 我ハ教位ハ侍友あり  
宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり  
宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり  
宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり

一 三教白ハ侍友あり 社佛圖

一 教位ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり  
宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり  
宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり  
宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり

一 日上ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり  
宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり  
宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり  
宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり

一 宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり  
宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり  
宣命ハ侍友あり 宣命ハ侍友あり

一 今<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>字<sup>ツキ</sup>仰<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>情<sup>ツキ</sup>并  
習<sup>ツキ</sup>化<sup>ツキ</sup>院<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>ハ<sup>ツキ</sup>應<sup>ツキ</sup>創<sup>ツキ</sup>教<sup>ツキ</sup>相<sup>ツキ</sup>寄  
宮<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>ハ<sup>ツキ</sup>應<sup>ツキ</sup>冷<sup>ツキ</sup>相<sup>ツキ</sup>寄<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>わ<sup>ツキ</sup>る<sup>ツキ</sup>  
公<sup>ツキ</sup>方<sup>ツキ</sup>所<sup>ツキ</sup>令<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>人<sup>ツキ</sup>令<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>書<sup>ツキ</sup>中<sup>ツキ</sup>  
院<sup>ツキ</sup>宮<sup>ツキ</sup>を<sup>ツキ</sup>換<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>す<sup>ツキ</sup>

一 中<sup>ツキ</sup>教<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>あ<sup>ツキ</sup>ら<sup>ツキ</sup>し<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>は<sup>ツキ</sup>松<sup>ツキ</sup>園<sup>ツキ</sup>大  
臣<sup>ツキ</sup>子<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>又<sup>ツキ</sup>應<sup>ツキ</sup>教<sup>ツキ</sup>相<sup>ツキ</sup>寄<sup>ツキ</sup>と  
書<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>室<sup>ツキ</sup>所<sup>ツキ</sup>殿<sup>ツキ</sup>中<sup>ツキ</sup>令<sup>ツキ</sup>任<sup>ツキ</sup>擢<sup>ツキ</sup>の  
後<sup>ツキ</sup>子<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>す<sup>ツキ</sup>

一 今<sup>ツキ</sup>者<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>凡<sup>ツキ</sup>ハ<sup>ツキ</sup>女<sup>ツキ</sup>院<sup>ツキ</sup>親<sup>ツキ</sup>王<sup>ツキ</sup>宮<sup>ツキ</sup>の<sup>ツキ</sup>家  
司<sup>ツキ</sup>御<sup>ツキ</sup>の<sup>ツキ</sup>事<sup>ツキ</sup>を<sup>ツキ</sup>書<sup>ツキ</sup>中<sup>ツキ</sup>一<sup>ツキ</sup>若<sup>ツキ</sup>し<sup>ツキ</sup>  
古<sup>ツキ</sup>書<sup>ツキ</sup>是<sup>ツキ</sup>ま<sup>ツキ</sup>の<sup>ツキ</sup>乃<sup>ツキ</sup>た<sup>ツキ</sup>外<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>勿<sup>ツキ</sup>論<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>  
松<sup>ツキ</sup>園<sup>ツキ</sup>法<sup>ツキ</sup>院<sup>ツキ</sup>の<sup>ツキ</sup>門<sup>ツキ</sup>下<sup>ツキ</sup>の<sup>ツキ</sup>ハ<sup>ツキ</sup>今<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>と  
不<sup>ツキ</sup>中<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>但<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>門<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>非<sup>ツキ</sup>后<sup>ツキ</sup>不<sup>ツキ</sup>  
如<sup>ツキ</sup>後<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>院<sup>ツキ</sup>宮<sup>ツキ</sup>不<sup>ツキ</sup>非<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>今<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>  
事<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>書<sup>ツキ</sup>中<sup>ツキ</sup>

一 教<sup>ツキ</sup>一<sup>ツキ</sup>位<sup>ツキ</sup>必<sup>ツキ</sup>大<sup>ツキ</sup>納<sup>ツキ</sup>小<sup>ツキ</sup>位<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>人  
之<sup>ツキ</sup>一<sup>ツキ</sup>位<sup>ツキ</sup>不<sup>ツキ</sup>叙<sup>ツキ</sup>二<sup>ツキ</sup>三<sup>ツキ</sup>位<sup>ツキ</sup>也<sup>ツキ</sup>  
奏<sup>ツキ</sup>議<sup>ツキ</sup>成<sup>ツキ</sup>大<sup>ツキ</sup>納<sup>ツキ</sup>小<sup>ツキ</sup>位<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>人  
吉<sup>ツキ</sup>田<sup>ツキ</sup>神<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>院<sup>ツキ</sup>陽<sup>ツキ</sup>也<sup>ツキ</sup>道<sup>ツキ</sup>も<sup>ツキ</sup>津  
任<sup>ツキ</sup>位<sup>ツキ</sup>を<sup>ツキ</sup>充<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>子<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>教<sup>ツキ</sup>を<sup>ツキ</sup>任<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>  
二<sup>ツキ</sup>位<sup>ツキ</sup>三<sup>ツキ</sup>位<sup>ツキ</sup>を<sup>ツキ</sup>任<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>教<sup>ツキ</sup>を<sup>ツキ</sup>任<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>  
之<sup>ツキ</sup>一<sup>ツキ</sup>位<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>也<sup>ツキ</sup>

一 女<sup>ツキ</sup>官<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>活<sup>ツキ</sup>て<sup>ツキ</sup>唯<sup>ツキ</sup>付<sup>ツキ</sup>は<sup>ツキ</sup>抄<sup>ツキ</sup>中<sup>ツキ</sup>  
之<sup>ツキ</sup>一<sup>ツキ</sup>の<sup>ツキ</sup>女<sup>ツキ</sup>官<sup>ツキ</sup>の<sup>ツキ</sup>女<sup>ツキ</sup>官<sup>ツキ</sup>也<sup>ツキ</sup>  
女<sup>ツキ</sup>友<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>世<sup>ツキ</sup>傳<sup>ツキ</sup>付<sup>ツキ</sup>ハ<sup>ツキ</sup>刀<sup>ツキ</sup>自<sup>ツキ</sup>傳<sup>ツキ</sup>選<sup>ツキ</sup>  
了<sup>ツキ</sup>の<sup>ツキ</sup>事<sup>ツキ</sup>也<sup>ツキ</sup>

一 大<sup>ツキ</sup>園<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>号<sup>ツキ</sup>し<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>ハ<sup>ツキ</sup>園<sup>ツキ</sup>白<sup>ツキ</sup>を<sup>ツキ</sup>点  
イ<sup>ツキ</sup>持<sup>ツキ</sup>あり<sup>ツキ</sup>の<sup>ツキ</sup>方<sup>ツキ</sup>を<sup>ツキ</sup>秘<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>す<sup>ツキ</sup>の<sup>ツキ</sup>  
印<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>乃<sup>ツキ</sup>云<sup>ツキ</sup>後<sup>ツキ</sup>成<sup>ツキ</sup>忍<sup>ツキ</sup>寺<sup>ツキ</sup>殿<sup>ツキ</sup>ハ  
一<sup>ツキ</sup>系<sup>ツキ</sup>殿<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>息<sup>ツキ</sup>園<sup>ツキ</sup>白<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>す<sup>ツキ</sup>其<sup>ツキ</sup>の<sup>ツキ</sup>  
あり<sup>ツキ</sup>所<sup>ツキ</sup>之<sup>ツキ</sup>大<sup>ツキ</sup>園<sup>ツキ</sup>と<sup>ツキ</sup>す<sup>ツキ</sup>又

後醍醐天皇播磨國白河又國白  
河に御遷幸と稱して世の事を  
知りし事~~は~~傳説の事あり  
世に傳へし事あり

一 播磨を治るる者人~~は~~  
後醍醐天皇の御代に記し  
ありし舎圖の事あり  
御代に記しあり

一 位は<sup>カキ</sup>て安徳の事あり  
とたけ方あり當朝にて  
二位中納言に位中納言に位  
治るる事あり

一 稱号小唐名を治るる當朝  
より<sup>カキ</sup>阿比事あり  
より<sup>カキ</sup>阿比相と河津相と  
ありし事あり

一 後醍醐天皇の御代に事あり  
國を治るる事あり  
一 依りて皇國吏勢の事あり  
出羽田代小什官を治る  
事あり  
一 出羽田代小什官を治る  
事あり

一 征夷大将軍 治るる府に事あり  
遠東大なる事あり  
一 使節鴨河使節國白河を治る  
事あり  
一 必位より小治るる事あり  
一 前伊勢守より位下源朝臣<sup>貞</sup>  
事あり  
一 當朝志より事あり  
一 書る位異の式あり

手打ハ白刃小ハ 散位  
正六位下前伊豫守源朝臣貞世  
と号し前ノ字ハ文成ハ人  
一任ハケ子ノ後手ナリ

一 北条義時ハ若友ノ政ニ窮  
ナリ若友大信ト北条義満又  
夫義満未任人ヲ代ハテ  
して為朝臣トナリ又正位  
派して散位ニ任トス

一 散位源隆下トキハ例  
トス武友トシ先爵ヲ  
志ナリ人ノ位異ナリ妻  
ノ爵トキハ例多ク  
之レヲ冠者ト稱シ元服  
して後を立ス又散位  
源隆下トキハ尚友ヲ稱

出志ナリトキハ例多ク  
一 尸ノ事ハ源隆下トキハ  
多ク成ハシテ

朝臣 宿祢 連 云人 縣主  
臣公 首 造 直 忌手 村主  
伊美吉 史 勝 部 氏 伊吉  
阿 神 奈 君 倉 人

叶内宿祢を初トシテ降月  
叙位ナリトキハ尸を  
志スルハ其ノ宿祢トキハ  
推平ノ者トシテ尸ノ  
弟一初臣ハ朝廷ノ事  
初長トシテ心ニ宿祢  
稱云人 宿祢トハ宿祢ト  
心ニ 縣主ト

一 昔ハ六七位ト叙ナリトキハ

月由 漢系 漢系 羽院より  
公位以下 羽院より 漢系 漢系  
公位以下 羽院より 漢系 漢系

一 儀同正司と云ふは漢系一位の  
唐系之漢系中古以来此  
例に叙一位之漢系大位の  
為 羽院より 漢系 漢系  
早儀同正司也 友 羽院  
羽院 漢系 漢系 漢系  
弟友 漢系 漢系 漢系  
人 漢系 漢系 漢系  
を 漢系 漢系 漢系  
日 漢系 漢系 漢系  
勅 漢系 漢系 漢系  
之 漢系 漢系 漢系  
付 漢系 漢系 漢系

之 漢系

一 位より 官昇 漢系 漢系  
よ 漢系 漢系 漢系  
中 漢系 漢系 漢系  
に 漢系 漢系 漢系  
中 漢系 漢系 漢系  
行 漢系 漢系 漢系  
漢系 漢系 漢系

一 侍 漢系 漢系 漢系  
漢系 漢系 漢系  
と 漢系 漢系 漢系  
斗 漢系 漢系 漢系  
又 漢系 漢系 漢系  
書 漢系 漢系 漢系  
他 漢系 漢系 漢系  
漢系 漢系 漢系



一 大中納言と大納言を並帯し  
たゞ一人は侍人も大納言とて  
大納言と事したるは之を兼左大納言  
今出川右大納言と事す

一 若友位異の中前大納言も  
非参預之左侍の人の位  
異ふは位、言ふを如右位  
若友を格して若菜と事  
す

一 位記ハ由記洞室言ハ大納  
言信知方ホの下又も  
官務洞之友務洞ハ必  
官尉 定と事す

一 位階系主位言、津守社務  
日吉 祢宜 吉田 八幡 春日  
康勝 河原 西夏 賀茂 祝

雲州 國造 穂田 大良司

一 冷泉院より第ハ安徳天皇  
後醍醐天皇後村上天皇を  
天皇と事す之ハ後ハ皆  
院号と

一 昔ハ國子ヲ國ノ下ニ治ムルニ  
事ノ分テ善政治セられ又  
旧事を定めてハ之ハ之れを  
任と事任久なれハ法新ハ之  
由の遠ハ十三代後醍醐天皇  
給今の國子の儀ハ世六  
極初ハ政風目ハ文事初  
風目を度風事と事

一 納言以上の人皆ハ府法室の  
格に任してハ流之納言  
以下ハ格有ハ遥授の友と

格高ハ格低ハ下トイフ  
上ノ家ト下ノ家トハ  
遠敷ト云

一 郡目ト云ハ南内ハ郡代職之  
者ハ郡ト云ハ大依小依之政  
主帳ト云ハ収支ト云ハ郡目ト云

一 法立府ハ郡中一玉ハ郡中  
居市ノ府ハ其ノ目ノ格高を  
金官小法ト云ハ今ナリ軍中  
軍中ノ格目ノ余友比ト云  
総ノ軍曹金友比ト云ハ  
志ナリ

守ノ副ハ軍金友比ト云ハ之

大國

守ト云 正六位上  
今ト云 正六位下

招小 正七位下  
日小 正八位上  
守格 正八位下

上國

守格 正五位下  
今 正六位上  
招 正七位上  
日 正八位下

中國

守 正六位下  
今 官位ハ正六位下  
正七位上  
正八位下  
日 正八位下  
大初位下

下國

守 正六位下  
招 正八位上  
日 正八位下  
大初位下

唐名

大正四回古及今所六辰

大正守

大正刺吏

上二回守

大宰

中二回守

宰吏

下一回守

牧宰

下回守

令长吏

别驾

摄目馬

同主簿 摄目縣令

大回

大和 河内 伊阳 武苑

上德 下德 常清 大正江

上野 大陵 奥 越若 肥後

越若 已上十三回

上回

山城 抄津 尾張 三河

壹江 後河 甲斐 右衛

吳波 佐法 下野 出羽

加賀 越中 越後 丹波

但馬 因幡 伯耆 出雲

美作 備前 備中 備後

赤松 周防 紀伊 河後

淡路 伊豫 筑前 筑後

肥前 肥后 豊後

已上廿六回

中回

安房 若狹 能登 佐渡

丹波 石見 長門 大和

日向 大隅 薩摩

已上十一回

下回

和泉 伊賀 志摩 伊美

飛騨 濃後 淡路 志波



わさひをねへはを中納言  
かきしりしはあまの影の  
まよりを来た納言二條中  
納言かきしりし

一 持の字を官のよふに官年大臣  
大卿倉をさしに持大納言持中  
納言とさしに又法友小持  
友の年ハと改稱多力ハに  
負致のハ持友か持さしに  
又納言を昇つて人頭か  
さ内は志しりしに倫の  
同定持友は任例もさし  
といつて持大納言は内を  
負致の布に准大臣のさし  
口傳

一 右史左史の

史官よりわさひを左史ハ  
右史を記す右史ハ左史を記すハ  
や他ハ一はあまの影の納言  
記人をさしと云史官を史と  
記すは朝々の内を記すハ外  
道本官の法内とし右史坊元  
内持法をさしり  
一 勅書書紙は記すは是も

主上目をも花といつて白子  
かきしりし姓を賜内 勅書ハ  
唐太宗より御といつて

一 宣命ハ非記を非一切天下  
の奇怪又所怪おの内ハよ  
としりし由記洞といふ

一 論奏の連累といふハ右史官  
とし大臣依論奏一連累ハ  
右史官かきしりし 主上目

可の字を平聲又剛の字  
平声の字も形し

一 改元時代始の改元は所即  
位の次年より改元といふ  
る非ハ依大半を改元外  
紀元れを言世所一枚小  
多号の字を平声と海方  
人平とといふ

一 愛胡と云天子一人胡改  
陸の法を法目改ハ常の  
正とといふ

一 廢勢と云法目改を去る  
子と云一日式と云  
一 堯奏と云親王官后法  
位の能を奏と云の印記  
上御小と云上御心減子奏

正と云

一 配流と云罪の輕きを去る  
空平和之流三人小罪  
書之凡人ハ口官を流り  
去流中流を流の品を大  
臣駭瀆の阿ハ大宰相は任  
納之ハ駭瀆の阿ハ法中の  
持之ハ任といふ又配而  
出之ハ流も去流も去  
如之例也

一 解官と云罪の清濁を去る  
之解友停任罪清時ハ  
之止兼官例也

一 除籍と云信長ホ去罪と付  
及除籍と判同事

一 追討と云旨付ハ法衛帶

弓矢列立者於法蓮大  
印記賜共人申詰給定  
之下之府庶諾して南  
門より出るといつて

一 関白の初は藤原春経とく  
陽成院冲亨止格改関白  
と改修ふく

一 格改の初は清和朝和世友  
系良房と格改之は友良人  
后格改の初は格改の幼主  
女帝の時なり

一 門下号初は平光法皇号  
は宇多帝仁和寺と格改  
は法皇なり

一 法中親王は在初白川法皇の  
沙皇の初は入和寺初親王

一 皇子乃修賜位初白川院冲  
亨仁和寺叙二品初なり

一 女院の初は十代 融院法  
皇崩所の所内皇后冷子乃后

一 号東三条院冲亨交初は  
初院初崇徳院冲亨

一 白川法皇を初院号多朝を  
号初院冲亨初は法皇の初は  
冷泉院初なり

一 白川院の初は平光法皇  
門下号と門下号と法皇の初は  
一向寺と格改の初は冷子乃后

一 法皇の初は門下号と  
法皇と号は法皇の息女  
入寺と号は門下号と法皇を  
初なり

平出書

帝王 一宮 皇后 皇祖  
皇妃 皇考 天子 冰急  
先帝 天皇 皇帝 陛下  
大皇 至尊 大妃 皇太后  
皇夫人 皇太妃 武后  
一系院中 後醍醐天皇  
所字如紙少紙平出少法之形  
一多月之又一話小冰皇位  
社之字短 是方七

關字

大江 宗廟 禁裏 院崇  
中宮 末宮 仙洞 太子  
玉母 儲君 親王 拾改  
關白 皇子 女院 女所  
玉新 天德 室祚 天恩

宣旨 編旨 院宣 勅宣  
勅裁 朝廷 胡歌 勅急  
羽忍 天下 宣命 奏守  
歲覽 歲少 口宣 勅使  
院使 赤履 勅定 勅書  
勅毛 偏言 令旨 震業  
將軍 公方 門次 二大臣  
上書 內書 所書 所威  
只石 沖雲 作 殿中  
殿上 殿下 內 大臣  
內裏 院末 卷白 行幸  
所幸 行使 出所 入所  
還所 還行 入白

所和之書中之書皆關字  
多り并關字 表關字  
同關字口傳



後氏十卷抄片

判官 通一 伴十 佐一  
新及 妻一 武一 安一  
么及 加一

官位表南三改片

大政大臣 一位

右大臣 正一位

大納言 正三位

大宰卿 中納言

近衛右衛門正尹

以上是皆正一位皇太子侍

中誓卿 正一位上

武部以下七省正一位

下及八正位中及大弁正位

正位上及中官妻女為太

丈系職位記為女勅令也

右大臣 正一位上

按京使 左大臣 正一位上

右大臣 正一位上

正一位下及中誓上卿

為中弁 大給吏 以下中位上

正一位下及正一位下

七省正位 正一位下

及中誓上卿 大舍人 正

書 正位 大學院 正位

正位 法政院 正位 正位

正位 內道院 正位 正位

察 正位 大舍判吏 正位

正位 正位 正位 正位

副侍 正位 正位 正位

中官 正位 正位 正位

陰陽 大舍判吏 正位 正位

掃部大宰少貳 兼官民  
 勅解由 次官 母長官  
 上國判吏 大監為 派六位下  
 同之 并海少輔 大内記 兼  
 吏 大布記 中務 大正 同德  
 内膳之膳 造酒正 弟正 大忠  
 而市正 正六位上 是相國 并派  
 七位下 官深自叙位 兼主 教細  
 之 位記 在尚 畧 頌 之意 有

位 唐名

正一位 文教位  
 派一位 開府 併同之 司  
 正二位 特進 又在國  
 派二位 光祿 太史  
 正三位 令崇 光祿 太史

派三位 派吉 光祿 太史  
 正四位上 正派 太史  
 派一 下 通派 太史  
 派一 上 大甲 太史  
 一 一 一 下 中 太史  
 正五位上 中教 太史  
 派一 一 下 羽 派 太史  
 派一 一 上 羽 派 太史  
 一 一 一 下 羽 教 太史  
 正六位上 羽 派 太史  
 一 一 一 下 兼 派 太史  
 派六位上 奉 派 太史  
 一 一 一 下 通 派 太史

以上十八階也 并 教 官 云 俸 派 羽 太  
 一 公 卿 殿 上 人 法 太 史 名 書 業  
 在 清 殿 位 乃 也

九条左大臣忠能  
 鳥丸大納言光政  
 柳原中納言光友  
 凡早宰相光成  
 中少将清光  
 水湫中少将朝臣  
 宇治侍清友  
 法吉史  
 柳田之膳正利政  
 一尸事... 曰位... 小八朝臣...  
 曰位... 未朝臣... 調...  
 二位... 冬... 藩... 分...  
 あり... 皆... 朝臣...

久忠私記尸書

朝臣真人 若稱類也  
 藤原朝臣 清原真人 官原若稱十ト也  
 又三位以上尸書也 是シ氏朝臣ト云四位以下名朝臣トテトハ  
 源正信朝臣ト如此也

源氏	藤氏	橘氏	紀氏	小野	宮道	高橋	惟原	祝部
德積	平部	星川	田口	田中	和氣	丹波	加茂	菅部
住吉	菅原	杜原	中原	永原	清和	宗像	大江	菅谷
橋本	大中	大神	百濟	善岡	藤井	栗田	河原	吉備
石川	池上	豊野	豊國	良家				
以上四十四朝臣								
小笠原	源原	御原	春日	吉野	多治	大岡	奥長	文屋
香屋	香山	山路	三國	三國	三嶋			
以上十九真人								
津守	掃守	新田	土師	ト部	山田	岡部	春部	坂上
入彦	小槻	坂田	大伴	尾張	宇佐	宇治	多真	神清
弓削	宮原	日置	以上二十一官稱也					
外	秦	高麗	高市	長谷部	依伯	曾根	南淵	嶋田
荒木	十市	川合	川上	九内	早風	生	葛城	久米
山邊	山皆	鴨	清川	三浦	三館	志賀	廣原	初部
新羅	谷川	川上	連	手代	海野	都部		
右雜	氏	朝臣	真人	若稱	尸書也	此外	八作	名字ト云由

